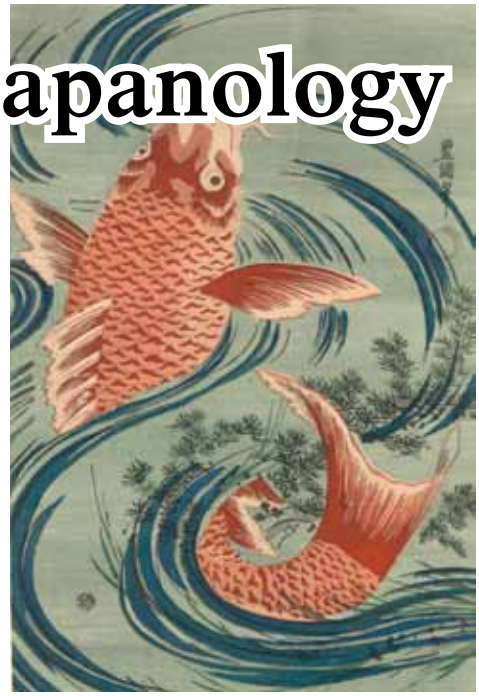
●エディション・シナプス創業 25 周年記念特価販売●

ジャポニスム
および
西洋の日本研究

洋書学術史資料目録

50%（一部 30%）割引対象商品

Primary Sources for Japonism and Japanology



Edition Synapse

フェノロサ手稿
「日本絵画蒐集作品解説付総目録」
復刻・翻刻・邦訳集成　全１巻

Complete Catalogue of Collection of Specimens of Japanese Art including Notes and Commentaries and Reference to the Other Note Books belonging to the Collector, by Ernest Francisco Fenollosa

山口静一（埼玉大学名誉教授）編・著

2020 年 7 月刊行　B5 判・約 370 頁（カラー図版 8 頁）　ISBN: 978-4-86166-212-6

本体価￥~~38,000~~-（＋税）　⇒　特価￥26,600-（＋税）

©2020 Museum of Fine Arts, Boston

ボストン留学中の故秋山光夫氏（当時東京博物館鑑査官）が 1930 年に現地の古書店で発見、購入した、アーネスト・フェノロサの自筆ノート（現在早稲田大学会津八一記念博物館所蔵）の初の公刊です。

お雇い外国人教師として来日後日本美術蒐集を開始したフェノロサが、入手した日本絵画の作品名、作者や流派などの基本情報を記し目録化した自筆ノートで、作品の図様や特色についての自らの解説や、助言を得た日本人美術専門家（鑑識家や画家）の意見が加えられています。ノート末にはフェノロサ自身が作成した索引も付されています。記載されている日本絵画は、米国帰国後、初代日本部部長となるボストン美術館に寄託され、現在同館の日本絵画コレクションの核の一つとなっています。フェノロサの日本での美術品蒐集の履歴や日本美術への理解を研究する資料としてだけでなく、明治期の専門家による日本美術の評価、そして日本美術の海外への流出史などを研究する上で極めて貴重ですが、現在まで公刊されることはなく、その内容は一部が紹介されるのみにとどまっていました。

本出版では、手稿ノート全ページの影印復刻に英文全文を翻刻、さらに編者による邦訳、解説および註解を加えます。また、目録中の各作品とボストン美術館の収蔵番号との対照表を作成し、現在同美術館のウェブサイトで公開されている美術品へのアクセスの利便性を図ります。

「本書はその（日本古美術保護活動の）最初期の現場でのいわばフェノロサの肉声、彼が何を考えていたのかをリアルに伝えている。ここから読み取れる情報は甚だ多く、作品情報から鑑定方法、アドバイザー、当時の日本・中国美術の知識など、１４０年前からの同時中継を聞いているようでワクワクさせられる。様々な新知見が切り出されることを期待したい。」

佐藤道信（東京芸術大学教授）

【収録内容】

① カラー図版（ボストン美術館 フェノロサ・ウェルド・コレクションより）/ Plates of Selected Paintings from The Fenollosa-Weld Collection, Museum of Fine Arts, Boston, c. 8 pp.
② 英文解説 / Introduction by Seiichi Yamaguchi, c. 8 pp.
③ フェノロサ手稿目録影印復刻 (含む索引) / Facsimile Reprint of Complete Catalogue of Collection of Specimens of Japanese Art including Notes and Commentaries and Reference to the Other Note Books belonging to the Collector Ernest Francisco Fenollosa, c. 200 pp.
④ 英文翻刻（含む索引）/Transcription of the ‘Catalogue’ including Index by Ernest Francisco Fenollosa c. 60 pp.
⑤ 編者英文註 / Editor’s Notes & Glossary, c. 8 pp.
⑥ 日本語解説 / Introduction in Japanese c. 5 pp.
⑦ 邦訳「日本語絵画蒐集作品解説付総目録」/ Translation of the ‘Complete Catalogue’ in Japanese c. 60 pp.
⑧ 作者および引用人物等日本語註解 / Editor’s Notes in Japanese, c. 10 pp.
⑨ ボストン美術館所蔵品アクセス対照表 / List of Access Numbers of Museum of Fine Arts, Boston, c. 5pp.

ジャポニスムの系譜 第 11 回配本 【シリーズ監修：馬渕明子】

英国のジャポニスム

ヴィクトリア朝・エドワード朝期雑誌・新聞記事集成　全 3 巻＋別冊日本語解説

Japonisme in Britain, Selected Articles from British Periodicals, 1825-1911

編集・解説■ 小野文子（信州大学准教授）
前文■マーガレット・F・マクドナルド（グラスゴー大学名誉教授）

←収録文献の詳細はこちらからご覧いただけます。

2022 年 1 月刊行　A4 判・全約 850 頁（図版多数）　**限定 100 部**
ISBN: 978-4-86166-224-9　**本体セット価 ￥~~98,000~~-（＋税）　⇒　特価￥68,600-（＋税）**

●日本美術・工芸品の人気の高まるヴィクトリア朝の前期から、日英博覧会が開催されエドワード朝が終わりを迎える 20 世紀初頭に、英国の定期刊行物に発表された日本芸術・美術工芸・建築に関する文献約 150 点を復刻集成する資料コレクション。

●シリーズ第 1 回配本（英文単行本集成）に収録した、オルコック、ジャーヴス、アンダーソン、ヒュイッシュら英語圏ジャポニスムの立役者や、リバティー、ビニョン、フライ等この時代の著名文化人が主要美術雑誌に執筆した記事をはじめ、評論誌、文芸誌に掲載された評論や書評などを 25 タイトル以上の雑誌、新聞から選書。また、専門家の論評だけでなく、ロンドン万国博覧会やジャポニスム期の日本美術展についての多くの無署名記事等も加え、英国での日本美術・工芸の初期受容史を、同時代の多様な文献で通観することを可能にする。

●ホイッスラー研究の第一人者マーガレット・F・マクドナルド氏の前文および編者（Routledge 刊 *Japonisme in Britain -Whistler, Menpes, Henry, Hornel and Nineteenth-century Japan* の著者）による解説（英語および日本語）を含み、ジャポニスム研究のみならず、広く英国での日本文化受容史研究・教育用の資料として貴重な資料集。

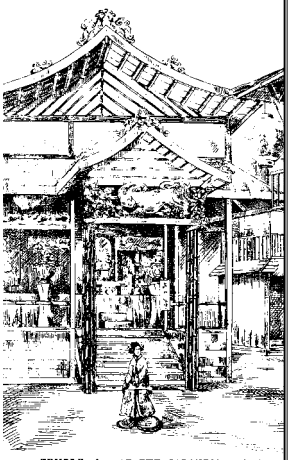
FROM A MODERN JAPANESE CARVING

推薦文　馬渕明子（ジャポニスム学会顧問・日本女子大学名誉教授）

このたび、『英国のジャポニスム — ヴィクトリア朝・エドワード朝雑誌・新聞記事集成』が刊行の運びとなった。言うまでもなく、19 世紀の英国は、中国をはじめとするアジアへの経済的・外交的な高い関心のもとに、多くの人材を派遣し、情報収集に努めた。日本の鎖国政策はそうした英国の姿勢に対して長い間高い壁であり続けたのだが、彼らは開国前後には他の西欧諸国に先んじていち早く多くの情報を得、またその分析に取り組んでいる。今回刊行される論文や記事は、日本では入手できにくい雑誌や新聞を含み、日本の開国前後から日英博覧会が行われた 1910 年頃までをターゲットに、長い期間の英国の日本文化、日本美術観を読み解くための、極めて有効な試みと言えよう。

日本の文物が流入して、いち早くジャポニスムを展開したのも英国はフランスと並んで最も早い国の一つだった。外交官や旅行者として来日し、質の高いコレクションを形成した人々のみならず、お雇いとして日本に生活の拠点をもち本格的に日本美術を学んだアンダーソンのような人物もいて、いっぽう美術家たちはその強い好奇心から新しい造形原理をかぎつけた。

このシリーズで、英国の人々が日本と日本美術に何を見、どんなジャポニスムを生みだしたのか、さらに研究が深まることを期待する。そしてこれだけの貴重な資料を惜しみなく提供して下さった小野文子氏に心から感謝したい。



TEMPLE, &c., AT THE JAPANESE VILLAGE.

マティルド夫人（初代イタリア公使夫人）の日本内地紀行　全２巻

The Travel Journals of Mathilde, Contessa Sallier de La Tour into the Interior of Japan, 1867-1870 including Letters, Notes and Sketches

編集・解説：Giulio Antonio BERTELLI（ベルテッリ ジュリオ アントニオ 大阪大学言語文化研究科）

2021 年 1 月刊行　クロス装 B5 判・総約 610 頁（全 2 巻）＊図版多数（一部カラー）含む　＊限定 100 部出版
ISBN：978-4-86166-223-2　本体セット価：~~￥78,000-~~（＋税）　⇒　特価￥54,600-（＋税）

イザベラ・バードの約 10 年前、明治 2 年に西洋人女性として初めて日本内地を旅し記録した、マティルド夫人の手稿の待望の公刊。

- 旅の日誌に加え、スケッチブックや書簡、横浜・江戸での生活記など、6 つの文書（ド・ラ・トゥール家に残るマティルド夫人の日本関連文書全点）のフランス語翻刻とその英訳に、2 か国語の解説、解題、註を加えた学究版。多数の図版入り。
- 戊辰戦争終結直後、いまだ大きな危険が伴う居留地外への初の外国視察団だったイタリア養蚕地視察団に同行し、数年後（明治 5 年）に富岡製糸場が設立される地域を含む関東北部養蚕業の中心地（上尾、前橋、渋川、大宮、八王子、町田等）を 20 日かけて旅した日誌。各地の人々の生活、風俗の克明な記録と旅行中に描いたスケッチを含む。
- 併録される居留地のノートは、イタリア公使館の整備に奔走する夫人の日常、英国公使パークス一家やフランス公使ロッシュをはじめとする横浜の要人との交流など、開国期の外交官の生活や幕末・維新史の裏側を語る貴重な情報源。
- また、イタリアの家族、友人に宛てた、日本へ向かう船旅や日本・中国滞在中の本音を吐露する書簡や、明治 2 ～ 3 年の大阪、神戸、瀬戸内海、長崎から上海、厦門、香港への旅を中心とした旅行記も収録。
- 本資料がイタリアで発見された後、2017 年には研究者間だけでなく日本の新聞紙上でも話題となったが、私文書の上、判読の非常に難しいフランス語手稿であったため、その詳細を知ることは困難であった。本書は長年にわたる編者の原資料の解読、調査、研究をまとめ公刊するもので、幕末・明治期の西洋と日本の研究に新たな一石を投じる画期的出版。

Chapter 2: Notes about Yokohama and Edo (1867)

the joists decorated with dragons painted in red, and the pious Japanese that we had seen taking his shower [at the waterfall] legitimately came to bow down on the steps and with a bang struck the bell of the heavy cord that was dragging down on the ground. Do not forget the beautiful green trees which stand out against the blue sky and frame the red-painted temple, with a black and white roof gilded and decorated with different bronzes, flowers and fantastic figures; and the statues which are in front on sentry duty, and the silence, and the murmur of the waterfall, and you will admit that it is a really beautiful scene.

Here is another excursion of a different kind, which deserves to be pointed out. The Baron von Brandt[85], the Prussian chargé d'affaires, invited us to come to dine or have lunch at Oggi [*sic*][86], a tea house in the surroundings of Yeddo. We were 6 people going there.

"Tea house" is the usual name for anything that falls into the category of restaurants, cafes, or hotels. The one we went to was renowned as the Ledoyen[87] of the Capital, two hours from the Legations district and in the middle of the countryside. The site was, as always, well chosen, on the edge of a small river, *a waterfall*, a thicket of trees and the house in the middle.

フランス語手稿の翻刻と英訳、序文、各文書の解題、注釈などすべて英仏二か国語にて記載しています。

ic] comme des petits chats, qui ont commencé a se mettre *a* 6 autour de
les broderies de geai[91] de mon jupon qui a fait l'objet de leur admiration.

---

gust Scipio Von Brandt (1835-1920) était un diplomate allemand qui est
okohama en 1862, et de 1872 à 1875, il a été ministre plénipotentiaire résidant
blié de nombreux ouvrages sur le Japon, la Chine et l'Asie orientale. Voir:

est également écrit en diagonale sur le côté gauche de la page. L'endroit que
est probablement la célèbre maison de thé *Ōgi-ya* (扇屋) à Ōji (王子), un
ns la partie nord de Tokyo, face au Sumidagawa. Cette maison de thé a été
n activité se poursuit aujourd'hui sous le même nom comme magasin de plats
dans l'*atsuyaki-tamago* (厚焼き卵 - une sorte d'omelette aux œufs mous).
oyen est un célèbre et ancien restaurant parisien, ouvert en 1779, et, à partir
ns les jardins des Champs-Élysées (son emplacement actuel).
tre parenthèses carrées sont restés vides: Mathilde avait probablement
re la taille moyenne d'un *tatami* (environ 1800x900 mm).
ppelle *sudare* (簾) en japonais.

[90] Ce mot se réfère à la *ozen* (お膳), c'est-à-dire un plateau avec des pieds, semblable à une petite table traditionnellement utilisée au Japon pour servir la nourriture.

[91] Il s'agit d'oiseaux européens à plumes bleues, de la famille des corbeaux.

プロイセン代理公使フォン・ブラントと王子の扇屋で日本料理を会食した際の日誌

CONTENTS

Volume 1: [手稿フランス語翻刻および解説、写真、スケッチ]

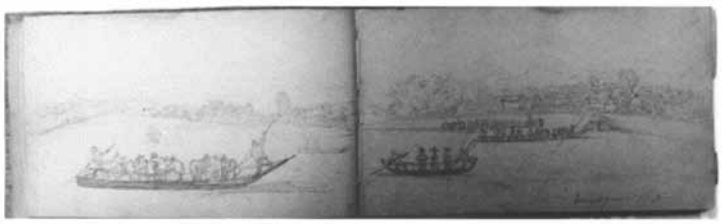
Transcriptions of Mathilde's Manuscripts in French & Sketchbook
Images and Photographs & Manuscripts
Preface & General Introduction (in French)
Acknowledgements & Editorial Notes (in French)
Part I: Le cahier de croquis de Mathilde / Mathilde's Sketchbook (1869)
Part II: Transcriptions of Mathilde's Notes, Letters and Travel Journals
Chapitre 1: Le voyage jusqu'au Japon - Égypte et Asie (avril-juin 1867)
Chapitre 2: Notes à propos de Yokohama et Edo (1867)
Chapitre 3: Cinq lettres envoyées du Japon et de la Chine (1867-70)
Chapitre 4: Une expedition dans l'intérieur du Japon (8-28 juin 1869)
Chapitre 5: Le voyage dans la mer intérieure du Japon et en Chine (1869-70)

Volume 2: [手稿英訳および解説、参考文献、索引]

English Translations of Mathilde's Writings
Preface & General Introduction (in English)
Acknowledgements & Editorial Notes (in English)
Part III: Translations of Mathilde's Notes, Letters and Travel Journals
Chapter 1: The Journey to Japan - Egypt and Asia (April-June 1867)
Chapter 2: Notes about Yokohama and Edo (1867)
Chapter 3: Five Letters sent from Japan and China (1867-70)
Chapter 4: An Expedition into the Interior of Japan (June 8th-28th, 1869)
Chapter 5: A Journey in the Inland Sea of Japan and China (1869-70)
References & Index

●本書に登場する主な人物●
L・ロッシュ、H・パークス夫妻、M・フォン・ブラント、J・ブリュネ、イタリア王妃マルゲリータ、F・デ・レセップス、ホッグ兄弟、クレッサー夫妻、明治天皇、徳川慶喜、瀧善三郎、寺島宗則、榎本武揚など

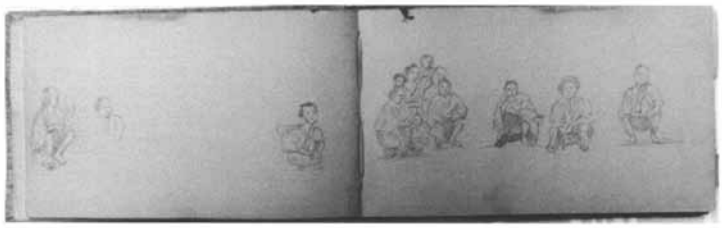
11- page 20 / page 21 (Sketch 13)



F: Le croquis 13 représente une traversée aventureuse de la rivière Tone, telle qu'elle est décrite dans le journal. En bas à droite de la page 21, il y a une petite inscription en italien: "Tonengawa 13 giu." (Tonegawa, 13 juin).

E: Sketch 13 depicts an adventurous crossing of the Tone river, as it is described in the journal. On the lower right side of page 21 there is a small inscription in Italian: "Tonengawa 13 giu." (Tonegawa, June 13th).

12- page 22 / page 23 (Sketches 14 & 15)



F: Les croquis 14 et 15 illustrent quelques figures japonaises: des femmes portant des enfants, un groupe de curieux ou une famille, des hommes et des femmes assis, etc...

E: Sketches 14 and 15 depict some Japanese people: women carrying children, a group of curious people or a family, men and women sitting, and so on.

編者からの言葉

ベルテッリ ジュリオ アントニオ
（大阪大学言語文化研究科准教授）

本書にて初めて全文翻刻、英訳とともに公刊される初代イタリア公使夫人マティルドの手稿一式は、西洋人女性の観点から明治維新前後の日本を注意深く観察する傍ら、未知なる日本の内地を旅する女性の記録として最も早いものである上に、多彩な魅力を秘める貴重な一次資料であると言える。

第一に、新鮮味がある。1880 年に刊行物として公開されたイサベラ・バードの『日本奥地紀行』と異なり、マティルドの史料は全て家族や友人に宛てた生の私文書であるため、刊行物に必要な文体の整理や修正が行われておらず、自己検閲の影響も受けていないため、150 年前に彼女の心を揺さぶったあらゆる感情はありのままで、現在を生きる我々にも新鮮に伝わる。

第二に、鋭い観察力に満ちた描写とユーモラスな逸話のバランスは絶妙である。マティルドは長期滞在者かつ外交官の妻であったため、彼女の日本とその文化に対する好奇心と理解力は特に深く、広範囲にわたる。彼女は日本の自然、美術、政治、歴史、日本人の文化、生活様式、美的感覚、外国人に対する接し方等に注目しながら、時折ユーモアと皮肉に満ちた逸話や刺のあるコメントで読者を驚愕させ、退屈させない。

総じて、繊細な心の持ち主であるマティルドと極度に刺激的な環境である日本との出会いは非常に興味深い成果をもたらしたと言える。そしてこの成果を公開しようという忘れられたマティルドの夢は 150 年の年月を経て、ついに実現した。

日本内地旅行中のスケッチブック（縮小掲載）。彩色された 1 点を除き 42 点の素描は鉛筆によるもので識別が難しいものが多くありますが、解説（二か国語）により、本文日誌と相互参照が可能になっています。

ジョサイア・コンドル
英文著作および関連資料集成

【復刻集成版】　全４巻＋別冊日本語解説

Collected English Writings of Josiah Conder

[*Series: Collected Works of Japanologists*]

●監 修● 山口静一（埼玉大学名誉教授）

●解 説● 山口静一 ＆ 顕原澄子氏（千葉大学工学研究院准教授）

2019 年 11 月刊行　ISBN:978-4-86166-211-9　　**本体セット価 ~~￥148,000~~-（＋税）　⇒　特価 74,000-（＋税）**
限定 80 部　判型：B5 判（Vol. 1 ＆ 2）・B4 判（Vol. 3 ＆ 4）・全約 1,250 頁　図版多数（カラー＆白黒）

●鹿鳴館、三菱一号館、ニコライ堂などを設計し、近代建築学の礎を日本で築いたジョサイア・コンドルの英文著作および関連文献計 65 点を図版（一部カラー）含め復刻する初の著作集。

●数多くの日本建築論をはじめ、日本の服飾、生け花、芸術論など英文紙・誌に発表した記事・論文を網羅。濃尾地震後の建築物被害に関する報告、クリストファー・ドレッサーやＦ・Ｔ・ビゴットとの芸術論争、国内外で報じられたコンドル死亡記事や死後のコレクションの売り立て目録など関連資料も多数収録。

●日本画の師河鍋暁斎の没後に発表された大著、*Paintings and Studies by Kawanabe Kyosai* 及びコンドル死後にコンドル博士記念表彰会が編集出版した写真・図版集は、コンドルの日光、京都訪問時のスケッチなど、カラー図版含め原寸復刻。

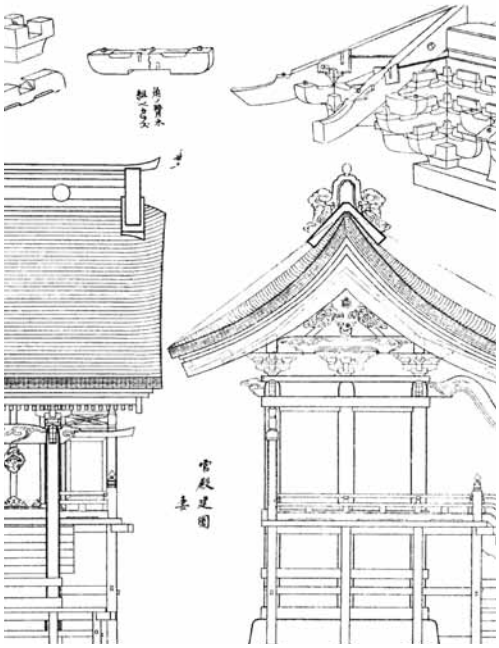
推薦文

藤森照信（東京都江戸東京博物館館長・東京大学名誉教授）

明治の初期、ヨーロッパの進んだ文明を日本に移植するため、多くのヨーロッパ人が政府に雇われて来日するが、任を果たすとほとんどは帰ってゆく。そうしたなかで、イギリス人建築家のコンドルは、鹿鳴館を作り終えても、ニコライ堂を完成させてもなぜか帰らなかった。

日本の文化が好きで好きでたまらなかったからだ。河鍋暁斎について絵を習い、庭を調べ、歌舞伎と落語を演じ、自宅に出稽古に来た花柳流の師匠を妻とし、日本の伝統文化に囲まれて日本の土に帰っている。

もちろん身を浸した日本の文化と建築について何冊もの本を書き、論文を発表した。しかし英文で書かれ主に海外向けに発表されたため、欧米では高い評価を得たものの日本では忘れられているものも少なくない。このたび集成された成果に接すれば、コンドルという優れた知性と個性を通して、今や失われた日本の伝統文化をまざまざと目にすることができるだろう。



●収録文献● [* = コンドル関連文献 / 無印＝コンドル著作]

第 1 巻：建築と日本庭園　B5 判・約 350 頁

1) 英国築家協会 1876 年ソーン賞受賞関連文献

1. ‘Prize Designs at the Institute of Architects’ *, *The Builder*, 18 March 1876
2. ‘RIBA Soane Medallion Prize Drawings, 1876 – Design for a Country House, By J. Conder’*, *The Building News and Engineering Journal*, 21 April 1876
3. ‘General Conference of Architects’*, *The Building News and Engineering Journal*, 16 June 1876

2) 日本建築関連文献 1878-1879

1. ‘Note on Japanese Architecture’ , *Transactions of the Royal Institute of British Architects*, 1878
2. ‘Discussion on Mr. Conder’s Paper - Notes on Japanese Architecture’*, *Transactions of the RIBA*, 1878
3. ‘Theatre in Japan’, *The Builder*, 5 April, 1879

3) クリストファー・ドレッサーとの五重塔論争 1882-1886

1. ‘Japanese Architecture and Art’ A Book Review of Japan: Its Architecture, Art and Art Manufactures, by Christopher Dresser*, *The Building News*, 24 November, 1882
2. ‘Japanese Pagodas and their Construction’, *The Building News*, 20 April, 1883
3. ‘Japanese Architecture and Ornament’ by Christopher Dresser*, *The Building News*, 12 December, 1884
4. ‘Japanese Pagoda’ by Roger T. Conder*, *The Building News*, 19 December, 1884
5. ‘The Suspended Beam in Japanese Pagodas’*, *American Architect and Building News*, June 26, vol. XIX, 1886

4) 日本建築関連文献 1883-1887

1. ‘Opening of the Rokumei-Kwan’ *, *The Japan Weekly Mail*, Dec. 1, 1883.
2. ‘Tokio University’ *, *The Builder*, 13 Dec. 1884
3. ‘Further Note on Japanese Architecture’, *Transactions of the RIBA*, vol. II (New Series), 1886
4. ‘The Mausoleum at Nikko’ by Roger T. Conder *, *Transactions of the RIBA*, vol. II (New Series) ,1886
5. ‘Association of Japanese Architects’, *The JWM*, Aug. 28, 1886
6. ‘Domestic Architecture in Japan’, Transactions of the RIBA, vol. III (New Series), 1887
7. ‘A Japanese Gentleman’s House at Tokio’ by Roger T. Conder*, *Transactions of the RIBA*, vol. III (New Series) 1887
8. ‘Domestic Architecture in Japan’*, *American Architect and Building News*, Volume 21, April 1887

5) 濃尾地震による建築被害調査 1889-1893

1. ‘Building in Earthquake Countries’, *The JWM*, July 22, 1889
2. ‘The Effects of the Earthquake.’ *The JWM*, Nov. 7. 1891
3. ‘The Neo Valley’ & ‘Gifu, Ogaki, and Osaka’, *The JWM*, Nov. 14. 1891
4. ‘The Earthquake District’, *The JWM*, Nov. 14. 1891
5. ‘Osaka’, *The JWM*, Nov. 21, 1891
6. ‘The Effects of the Recent Earthquake upon Buildings’, *The JWM*, Dec. 12, 1891
7. ‘Earthquake versus Buildings’, *The JWM*, January 30, 1892
8. ‘Building Material and Earthquakes’ *, *The JWM*, Aug. 6, 1892,
9. ‘An Architects Note on the Great Earthquake of October 1891’, *Seismological Journal of Japan*, vol. 18, 1893

6) 日本建築関連文献 1890-1901

1. ‘The Tokyo Hotel’, *The JWM*, Sept. 20, 1890
2. ‘S. Hilda’s Hospital and Dispensary, Azabu, Tokyo’*, *The JWM*, Oct. 23, 1890
3. ‘Opening of the Cathedral of the Greek Church in Japan.’*, *The JWM*, March 14, 1891
4. ‘Japanese Architectural Decoration’*, *The JWM*, Feb. 12, 1898
5. ‘Christ Church’*, *The JWM*, July 2, 1899
6. ‘New Christ Church’*, *The JWM*, July 2, 1899
7. ‘New Christ Church’*, *The JWM*, Nov. 25, 1899
8. ‘Yokohama United Club’, *The JWM*, Oct. 13, 1900
9. ‘Christ Church’*, *The JWM*, Feb., 1901
10. ‘Christ Church’*, *The JWM*, June 1, 1901

7) 日本建築学会 15 周年表彰

1. ‘Presentation and Addresses by Tatsuzo Sone, the President of the Institute & by Names of Your Pupils and others’ / 2. ‘Reply to Addresses and Presentation by Dr. J. Conder’, *Kenchiku Zasshi*, No. 402, 1920

8) 日本庭園関連文献

1. ‘The Art of Landscape Gardening in Japan’, *Transactions of the Asiatic Society of Japan*, vol, XIV, 1886
2. ‘Review of Landscape Gardening in Japan’ *, *The JWM*, July 15, 1893

第 2 巻：日本文化と芸術　B5 判・約 400 頁

1) 日本の服飾関連文献

1. ‘The History of Japanese Costume － Court Dress’, *TASJ*, vol. VIII, 1880
2. ‘The History of Japanese Costume － Armour’, *TASJ*, vo1. IX, 1881

2) 日本美術

1. ‘Conservatism in Japanese Art’ *, *The JWM*, Aug. 28, 1886

[F. T. ピゴットとの論争] ----------

2. ‘Of Art in General and Japanese Art in Particular’ * by F. T. Piggott, *The JWM*, Nov.9, 1889 / 3. ‘The Meiji Art Society’, *The JWM*, Dec. 14, 1889 / 4. ‘Japanese Art’ by F. T. Piggott*, *The JWM*, Dec.28, 1889 / 5. ‘Japanese Art’*, *The JWM*, January 4, 1890

---

6. ‘Buddhism in Japanese Art’ *, The JWM, Sept. 24, 1892

3) 生け花関連文献

1. *Theory of Japanese Flower Arrangement*, New edition, Kobe: J.L. Thompson & Co, 1935
2. ‘Mr. Conder’s Art of Flower Arrangement’, *The JWM*, Sept. 5 1891
3. ‘Flowers of Japan’ *, The JWM, April 16, 1892
4. ‘Mr. Conder’s Work on Japanese Flowers’ *, *The JWM*, March 18, 1893
5. ‘Japanese Flower Arrangement’, *The Studio*,1896-97, 1896

4) 売立目録

1. *Doctor Josiah Conder’s Sampling af Japansk Kunst, 1942*, V. Winkel & Manussen, Kobenhavn
2. *Catalogue of Fine Japanese Paintings and Colour Prints*, Day of Sale: Monday, January 18th 1965, Japanese Paintings and Screens from the Collection of the late Dr. Josiah Conder

第 3 巻：河鍋暁斎論　B4 判・約 260 頁

1. Kyōsai, *The JWM*, May18, 1889*（unsigned obituary, attributed to Josiah Conder）
2. *Paintings and Studies by Kawanabe Kyosai*, 1911
   Contents: Plates and Illustrations / Life of Painter / Painting Materials / Painting Methods / Examples of Technique / Signature and Seals / Catalogue of Collection / Glossary

第 4 巻：コンドル博士記念表彰会編『コンドル博士遺作集』（昭和六年刊）および英文紙誌の訃報　B4 判・約 120 頁

Collection of the Posthumous Works of Dr. Josiah Conder, F.R.I.B.A, Committee of The Memorial Album of Dr. Conder’s Posthumous Works, Tokyo, 1932 /『昭和 6 年

[英文新聞・雑誌の訃報]

1. *Japan Times and Mail*, June 23, 1920 / 2. *Japan Advertiser*, June 23, 1920 / 3. *The Builder*, Sept. 10, 1920 / 4. *RIBA Journal*, Vol. 27, Sept. 1920 / 5. *The Building News*, Nov. 19, 1920, p. 256

世界の新聞・雑誌の風刺漫画から歴史を読み解く好評シリーズ、第 3 期発刊

万国風刺漫画大全

第 3 期：戦間期の世界

【復刻集成版】全 3 巻＋別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1921-1930

■編集・解説■ 橋本順光（大阪大学文学部）

[British Satirical Periodicals of the Nineteenth Century Series IV]

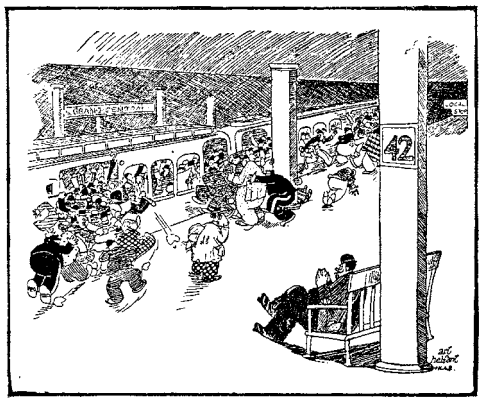
2018 年 11 月刊行　B5 判・1620 ページ 上製　ISBN 978-4-86166-196-9

本体セット価 ￥~~138,000~~-（＋税）　⇒　特価￥69,000-（＋税）

●世界各国で発行された雑誌、新聞の風刺画コレクションのシリーズ第 3 期は、第一次大戦終戦から 10 年間の戦間期を対象にし、世界 35 か国で刊行された約 360 紙誌から、*The Review of Reviews*『評論の評論』誌に転載された 4700 点以上の風刺漫画を集成。

●アイルランドやインドでの独立運動など、大英帝国の没落と米ソの台頭が顕著となるこの時代、欧米のメディアだけでなく、インドの *Hindi Punch*、中国の *North China Herald*、日本の『大阪パック』などアジアも含めた各国のプロパガンダとしての風刺漫画が増す一方、20 年代前半の政治的な小康状態を反映し、解放された女性たちやそのファッションを揶揄する漫画や、チャップリンのような映画スター、アインシュタインのような科学者やスポーツ選手が風刺の対象として登場、漫画のスタイルも今日の表現方法に近づき大きく変化してゆく。

● 20 年代後半になるとファシズムを生む要因の一つとなった移民問題を風刺する漫画なども増加し、ムッソリーニに続いてヒトラーが登場、短かった平和の時代の終焉と第 2 次大戦へ向かう世界が、この風刺漫画コレクションを通して視覚的にはっきりと読み取れる。



Judge] [New York
Tramp : " I'm darn glad that I haven't any home to go to ! "

■好評既刊■ 第 2 期：戦争の世紀の幕開け　全 4 巻＋別冊　**在庫僅少**

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1906-1920

B5 判・総 1,970 頁　ISBN: 978-4-86166-195-2

本体セット価￥~~148,000~~-（＋税）　⇒　特価￥74,000-（＋税）

ファシズムの時代を諷刺した世界各国の雑誌・新聞漫画約 3,200 点を収録

万国風刺漫画大全
第４期：第二次大戦へ向かう世界

【復刻集成版】全３巻＋別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1931-1940

■編集・解説■ 橋本順光（大阪大学文学部）

[British Satirical Periodicals of the Nineteenth Century Series V]

2020 年 10 月刊行　B5 判・総約 1,660 頁　ISBN: 978-4-86166-197-6

本体セット価 ~~￥138,000-~~（＋税）　⇒　特価￥69,000-（＋税）

- 19 世紀末から 1940 年までの世界の風刺画コレクションシリーズが完結。
- 第４期では、第二次世界大戦前の 10 年間を対象に、世界 38 か国で刊行された約 380 紙誌から、*The Review of Reviews*『評論の評論』誌に転載された 3,200 点以上の風刺漫画を集成。
- 欧米の主要な全国紙だけでなく地方紙やその他諸国でも数多く諷刺されたヒトラー、ムソリーニ、日本の軍事主義、日中戦争、カンジーとインド独立運動などに関する世界各地の風刺漫画が満載。
- 政治問題に加えて、経済、貿易、教育や文化芸術、女性や人種問題など戦前期の国際社会のあらゆる側面を映し出した視覚資料集。
- シリーズ全 13 巻で 1890 年から半世紀の諷刺漫画 18,000 点以上を収録。

第４期収録漫画の主な風刺テーマ

- ナチスの台頭・ファシズム・共産主義
- 大恐慌の拡大・死の商人・大英帝国の衰退
- アジアの諷刺漫画（中国のサパジュ・インドのシャンカー）
- 日本の軍事主義化・日中戦争・ガンジーとインド独立運動
- 国際連盟・軍縮会議
- 反ユダヤ主義・人種問題
- ベルリンオリンピック・スポーツ
- 映画・性・検閲
- モダンな女性・社会風俗など

英文日本年鑑
The Japan Year Book:

Complete Cyclopaedia of General Information and Statistics on Japan and Japanese Territories, 1905-1911

Edited by **Takenobu Yoshitarō**（武信由太郎）/
Published by The Japan Year Book Office
New Introduction by Peter O'Connor（英文序文：ピーター・オコーノ 武蔵野大学教授）
（『戦前期英文日本年鑑コレクション』シリーズ /
Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English Series）

第 1 回配本：1905 年～ 1911 年　全 6 巻

2013 年 4 月刊行　A5 判（原本を約 10％拡大）・全約 3,900 頁　ISBN: 978-4-86166-160-0
本体セット価￥~~148,000~~-（＋税）　⇒　特価￥74,000-（＋税）

第 2 回配本：1912 年～ 1917 年　全 6 巻

2015 年 1 月刊行　A5 判（原本を約 10％拡大）・全約 4,500 頁　ISBN: 978-4-86166-161-7
本体セット価￥~~168,000~~-（＋税）　⇒　特価￥84,000-（＋税）

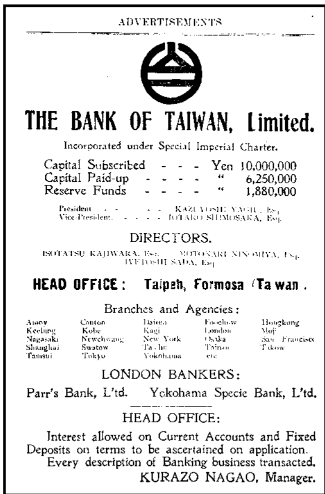
第 3 回配本：1918 年～ 1923 年　全 5 巻

2016 年 11 月刊行　A5 判（原本を約 10％拡大）・全約 4,800 頁　ISBN: 978-4-86166-162-4
本体セット価￥~~168,000~~-（＋税）　⇒　特価￥84,000-（＋税）

- 『ジャパン - タイムズ』を設立し副主筆を務めた武信由太郎（1863-1930）が創刊した、日本初の本格的英文年鑑。
- 武信は官立英語学校卒業後、札幌農学校、横浜英字新聞社などを経て、福澤諭吉ら政財界の後押しで創設された日本人による初の日刊英字新聞『ジャパン・タイムズ』に参画、日本情報の海外への発信に力を注いだが、同時に早稲田大学教授として英語教育の分野でも名を残し、『英語青年』誌の創刊や『武信ポケット新和英辞典』、『武信和英辞典』（研究社・新和英大辞典の前身）など本格的な辞書を編集したことでも知られる。
- 本年鑑は 1905 年に創刊、当初ジャパン・タイムズ社が印刷を請け負っていたことからも、同紙と編集、製作面などで連携していたと思われる。
- その後出版社が変わるものの、戦中から戦後まで継続された唯一の英文日本年鑑で、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野の動向を各巻 500 ～ 800 頁強にまとめ、詳細な統計資料とともに出版した。台湾、朝鮮、樺太や満州に関する情報も独立した章に掲載された。
- ロンドン、ニューヨークに販売代理店を置き、海外でも広く販売、一時期英国タイムズ紙主宰のブッククラブにも採用され会員に頒布されたこともある。
- ***Japan Times*** とならび 20 世紀前半の日本人による西洋への情報発信に重要な役割を果たし、当時の海外報道機関なども日本情報源として高く信用、利用した。

●主な執筆者●

池田謙三（第百銀行頭取、東京貯蔵銀行頭取を務め、日本興業銀行、台湾銀行の創立に参画。）
岡村司（明治・大正期の法学者・弁護士。京都帝国大学教授。）
木下淑夫（鉄道官僚。観光産業の重要性を説き、ジャパン･ツーリスト･ビューロー（日本交通公社）の生みの親となった。）
呉文聡（統計学者。内務省、農商務省で統計の開発・整備に当たる。）
桑田熊蔵（社会政策学会を創設した経済学者。中央大教授、内務省社会局参与などをつとめた。）
煙山専太郎（西洋史学者、政治学者、早稲田大学教授。国際・外交問題専門誌『外交時報』の数多くの論文を寄稿し執筆面を支えた。）
小崎弘道（牧師。熊本洋学校で学んだ後、同志社に転入、新島襄と出会い伝道をともに行う。霊南坂教会を創設し、同志社第２代社長（総長）、日本組合基督教会会長、日本基督教連盟会長などを務めた。）
阪田貞一（工学者。欧米で機械工学を研究したのち帰国、東京高等工業学校（東京工業大学）校長をつとめた。）
阪谷芳郎（大蔵官僚、政治家。大蔵大臣、東京市長、専修大学学長を歴任。）
佐藤昌介（札幌農学校第１期生としてクラークに学び渡米。新渡戸稲造らと初の農学博士の称号を授与。札幌農学校校長、東北帝国大学総長を歴任後。北海道帝国大学の初代総長。）
下田次郎（女子教育家。女子高等師範学校（お茶の水女子大学）教授。大日本女子教育会を設立し女子の教育の振興に大きな功績を残した。）
頭本元貞（伊藤博文や渋沢栄一に重用され国際的に活躍したジャーナリスト。衆議院議員。）
添田壽一（大蔵官僚、銀行家、官庁エコノミスト。日本法律学校（日本大学）の設立に加わった。）
高田早苗（政治家、教育者、法学博士。文部大臣、早稲田大学総長などを歴任。）
武信由太郎（『ジャパン・タイムズ』創設に参画した、明治・大正期を代表する英語学者。早稲田大学教授。日本初の本格的な和英辞典『武信和英大辞典』を編纂した。）
留岡幸助（感化院教育、社会福祉の先駆者。）
中松盛雄（特許局長、日本基督教会理事長、化学工業協会会長などを歴任した官僚、弁護士、弁理士。）二階堂保則（統計専門家。内閣統計局で「人口動態調査」や国勢調査局で第１回国勢調査の実施に当たった。人口統計、統計学関する論著多数。）
本多静六（林学博士､造園家。東京農林学校（東京大学農学部）教授。日本の「公園の父」といわれ、日比谷公園はじめ明治神宮、北海道の大沼公園、福岡の大濠公園など多数の公演の設計に携わった。関東大震災からの復興の原案作成したことでも知られる。）
和田維四郎（鉱物学者、書誌学者。大学東京大学創設にあたり、ナウマンの助教として理学部地質学科に加わる。農商務省地質局長、鉱山局長、地質調査所所長、東京大学教授を歴任。）



ADVERTISEMENTS

THE BANK OF TAIWAN, Limited.

Incorporated under Special Imperial Charter.

Capital Subscribed - - - Yen 10,000,000
Capital Paid-up - - - - " 6,250,000
Reserve Funds - - - - " 1,880,000

President - - - - - KAZUYOSHI YAGIU, Esq.
Vice-President - - - - - IOTARO SHIMOSAKA, Esq.

DIRECTORS.

ISOTATSU KAJIWARA, Esq. MOTONARI NINOMIYA, Esq.
IYETOSHI SADA, Esq.

HEAD OFFICE: Taipeh, Formosa (Taiwan).

Branches and Agencies:

Amoy, Canton, Dairen, Foochow, Hongkong,
Keelung, Kobe, Kagi, London, Moji,
Nagasaki, Newchwang, New York, Osaka, San Francisco,
Shanghai, Swatow, Tainan, Tokow,
Tamsui, Tokyo, Yokohama, etc.

LONDON BANKERS:

Parr's Bank, L'td. Yokohama Specie Bank, L'td.

HEAD OFFICE:

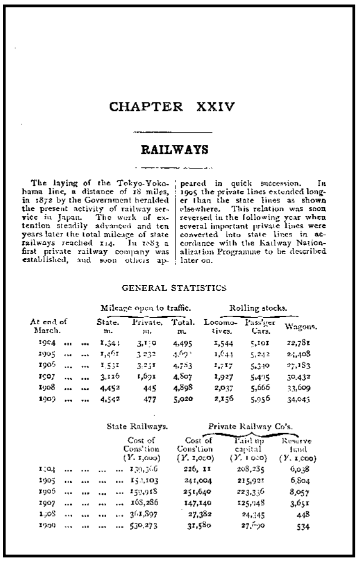
Interest allowed on Current Accounts and Fixed Deposits on terms to be ascertained on application.
Every description of Banking business transacted.
KURAZO NAGAO, Manager.

＊ Press comment on the 1910 edition ＊

Daily Telegraph (May 26th, 1910) – The work constitutes a most comprehensive cyclopaedia of general information and statistics concerning Japan.

Financial Times (May 30th , 1910) – This very useful manual should be of greater service than ever this year, on the one hand, of the steady expansion of business between Great Britain and Japan and, on the other hand, of the interest which is now being directed to Anglo-Japanese matters by the exhibition at Shepherd's-Bush. … The book should prove extremely useful to those who desire information with regard to anything "Japanese".

The Times (July 19th, 1910) – Those who are interested in the Japanese Empire will find this little book of great value. It is to a larger extent what it claims to be – namely, "a complete cyclopaedia of general information and statistics on Japan". The editor, Professor Y. Takenobu, of Waseda University, formerly editor of the Japan Times, is a well-known economist and writer, He has apparently spared no pains to include in the fifth annual volume of his publication the most recent data, and in many cases the figures have been brought down to 1909. Not the least important feature of the Japan Year Book is Chapter V., which comprises a "Who's Who in Japan". In the compilation of the Japanese number of The Times frequent reference has been made to Mr. Takenobu's work, and in nearly all instances the information sought has been found.



CHAPTER XXIV

RAILWAYS

The laying of the Tokyo-Yokohama line, a distance of 18 miles, in 1872 by the Government heralded the present activity of railway service in Japan. The work of extention steadily advanced and ten years later the total mileage of state railways reached 114. In 1883 a first private railway company was established, and soon others appeared in quick succession. In 1905 the private lines extended longer than the state lines as shown elsewhere. This relation was soon reversed in the following year when several important private lines were converted into state lines in accordance with the Railway Nationalization Programme to be described later on.

GENERAL STATISTICS

At end of March.	Mileage open to traffic. State. m.	Private. m.	Total. m.	Rolling stocks. Locomotives.	Pass'ger Cars.	Wagons.
1904	1,341	3,1[illegible]0	4,495	1,544	5,101	22,781
1905	1,461	3,232	4,69[illegible]	1,644	5,242	24,408
1906	1,531	3,251	4,783	1,717	5,340	27,183
1907	3,116	1,691	4,807	1,927	5,495	30,432
1908	4,452	445	4,898	2,037	5,666	33,609
1909	4,542	477	5,020	2,156	5,956	34,045

	State Railways. Cost of Cons'tion (Y. 1,000)	Private Railway Co's. Cost of Cons'tion (Y. 1,000)	Paid up capital (Y. 1,000)	Reserve fund (Y. 1,000)
1904	130,366	226,111	208,235	6,038
1905	15[illegible],103	241,004	215,921	6,804
1906	159,918	251,640	223,336	8,057
1907	168,286	147,140	125,948	3,651
1908	361,897	27,382	24,345	448
1909	530,273	31,580	27,[illegible]90	534

戦前期の日本を視覚的に海外に発信した英文写真年鑑

『ジャパン・イラストレイテッド』全10巻

Japan Illustrated, 1934-38

完結

A Year Book of Japan with Official Information and Statistical Data on All Phases of the Empire combined with Special Articles and a Complete Guide Book

Edited by Nippon Dempo News Agency（日本電報通信社）

【復刻版 監修・解説】土屋礼子（早稲田大学政治経済学術院教授）※ 解説書は第 1 回配本に付録されます。

■第 2 回配本（完結）

Japan Illustrated, Part 2: 1937-1938　全 4 巻

[Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English, Series 5]

2018 年 6 月刊行　B5 判・全約 1,300 頁　ISBN: 978-4-86166-166-2

本体セット価：~~￥128,000-~~（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

●多数の白黒写真とカラー図版により日本を海外に広く紹介した、豪華英文写真年鑑 *Japan Illustrated* 復刻版が完結。

●戦前期の日本の国家の宣伝の一端を担った出版物で、時事情報やデータをまとめた一般の「年鑑」の内容に加え、各年後半は General Guide for Foreign Travellers と題し、日本の各地を海外に紹介する日本ガイドとなっている。日本ほぼ全土の自然や名所旧跡を地域ごとに紹介、建築、美術工芸品は一部カラー図版も使い掲載し、教育、スポーツや芸術活動など文化的な国家イメージの PR にも多くのページを割き、また外国人外交官や海外からの来日した著名人なども写真入りで報じている。

●植民地台湾、朝鮮、南方諸島、樺太などに加え、満州に関しては独立したセクションが設けられ産業や人々の生活に関する貴重な写真も多数掲載。

●メディア史、広告史、写真史、観光史などの資料としてのみならず、近代日本史に関するあらゆる側面のデータおよび視覚的資料として利用が可能。

■第 1 回配本

Japan Illustrated　Part 1: 1934-1936

全 6 巻＋別冊解説

[Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English, Series 4]

2017 年 11 月刊行　B5 判・全約 2,650 頁（カラー図版 35、白黒図版約多数）

ISBN: 978-4-86166-165-5

本体セット価 ~~￥168,000-~~（＋税）　⇒　特価 ￥84,000-（＋税）

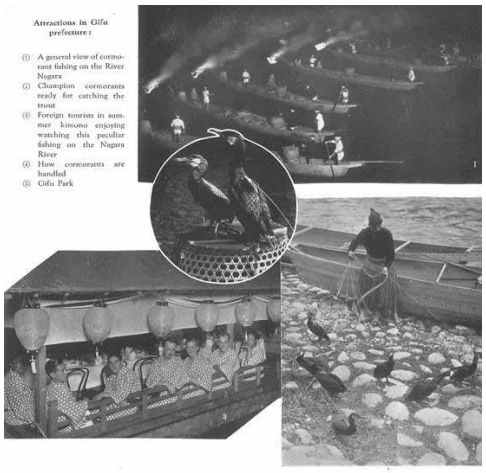
監修者より

土屋礼子

1934 年に日本電報通信社（のちの電通）から創刊された『Japan Illustrated』は、「英文電通年鑑」とも称され、明治末から同社によって刊行された『新聞総覧』や、戦後の『電通広告年鑑』のように長く続いた年鑑類に比べるとあまり知られていないが、この時代の英文年鑑としてひときわ分厚く豪華な特筆すべき出版物である。

1932 年の満州国成立以降、国策通信社・同盟通信創設のため通信部門をもぎ取られることになった電通は、一方で国策に沿うような海外向けの雑誌や書籍を出版しており、この年鑑もその一つである。その内容は、日本の国勢に関する概説と外国人観光客に向けての観光案内を二つの柱として構成されている。先行していた武信由太郎の『The Japan Year Book』に比べると、紳士録に相当する要人名簿がなく、データ類は少ないが、日本への旅に誘うような風景や人物の写真がカラー写真も含めて多く織り込まれているのが特徴である。

太平洋戦争時に制作された連合軍側の宣伝ビラに用いられた写真も散見され、欧米ではこの年鑑が一般的な参考文献として活用されたことが伺える。その意味でも、戦前・戦中・戦後と日本に対する欧米諸国のまなざしを日本側がどのように意識して宣伝していたのか、そして実際どのように編成されたのか、考察するためにも重要な文献だといえる。



Japan Illustrated 1937 CONTENTS

VOLUME 7

PART I: A Year Book of Japan
Chapter I: The Imperial Court of Japan
Chapter II : The Influence of Geography on Industry
Chapter III : The Present and Future of the Japanese Population
Chapter IV : Government
Chapter V: Principal Domestic Events
Chapter VI: The Army
Chapter: VII The Imperial Japanese Navy and Naval Limitation
Chapter VIII: Foreign Relations
Chapter IX: The Press
Chapter X: Communications
Chapter XI: Education
Chapter XII: Religion
Chapter XIII: Social Work
Chapter XIV: Patents
Chapter XV: Olympic Games (The 1940 Olympic Games to be Held in Tokyo)
Chapter XVI: Finance
Chapter XVII: Economic Affairs
Chapter XVIII: Aviation

Appendix:The Constitution / The Imperial House Law / Diplomatic Representatives in Tokyo / The German-Japanese Agreement Against the Comintern

VOLUME 8

PART II General Guide for Foreign Travellers
Chapter I: Kwanto and Tohoku
Chapter II: Chubu Region
Chapter III: Kinki Region
Chapter IV: Chugoku Region
Chapter V: Shikoku Region
Chapter VI: Kyushu Region
ChapterVII: Hokkaido
Chapter VIII: Overseas Possessions: Chosen / Taiwan / Karafuto / Kwantung Province / South Sea Islands
ILLUSTRATIONS IN COLOURS (The Flowers of the Field, by Taikwan Yokoyarna / In Search of Autumnal Beauty / A Multi-coloured Pot, by Ninsei Nonomura / Kirishima Azalea / Iris Garden / Flower and Birds, by a Master of the Kano School)
SUPPLEMENT ON MANCHOUKUO
Chapter I: Introduction (March of Progress / Government and Foreign Affairs / Area and Population / Judiciary / Local and Municipal Administration)
Chapter II: Finance
Chapter III: Currency and Banking
Chapter IV: Economy and Industry
Chapter V: Transportation and Communications

APPENDICES (Japan's Declaration on Abolition of Extrality / Exchange Control Law / Manchoukuo-German Trade Agreement / Japan-Manohoukuo Treaty on Extrality / Supplementary Agreement / Foreign Trade Statistics
INDEX TO ADVERTISERS

西洋人女性の明治日本記
英文書誌事典　全１巻

Meiji Japan as Western Women Saw It
A Bibliographic Companion

Isabella Bird

編・著　Ronald D. Klein / ロナルド・クライン (元広島女学院大学教授)

2016 年 10 月刊行　B5 判・クロス装　約 345 頁（カラー図版・白黒写真入り）　ISBN: 978-4-902454-93-2

本体格：￥~~34,800~~（＋税）　⇒　特価￥17,400-（＋税）

●明治日本を著した西洋人女性約 200 名の詳しい人物情報と主著 600 点の解題、さらに雑誌記事や二次文献も含めた 1,200 件近い書誌情報をまとめた初の本格的英文書誌。

●著者を①旅行者、②キリスト教宣教師、③日本滞在者、④小説家に分類し、各項目にはその分野での西洋と日本との接触・関係史を詳説する序文が書き下ろされ、さらに原書カヴァーや挿絵のカラー図版や著者の肖像写真など視覚資料も掲載。

CONTENTS

Book Covers and Illustrations
General Introduction
Chapter I: Tourists and Travelers
[Travel Writers 40 / Annotations 45 / Bibliography 109]
Portraits of Women Travelers
Introduction
1.Victorian Women Travelers
2.Women Tourists and Travelers to Japan
3.Guide Books for Tourists
4.Varieties of Women Tourists and Travelers to Japan
5.Conclusion
Key Works by Women Tourists and Travelers
Part 1: Early Impressions—1860s and 1870s
Part 2: The Second Wave—1880s
Part 3: The Latecomers—1890s
Part 4: The Last Wave — 1900 to the End of the Meiji Era
Bibliography
Part 1: Works by Women Tourists and Travelers
Part 2: Secondary Sources
Part 3: Secondary Sources on Specific Authors

Chapter II: Missionaries
[Missionaries Writers 59 / Annotations 155 Bibliography 574]
Portraits of Women Missionaries
Introduction
1. Women's Work for Women Worldwide
2.The Protestant Church
3.The Roman Catholic Church
4.The Greek Orthodox Church
5.The Church Missionary Society
6.Other Christian Institutions
7.Women's Education
8.Social Services
9.Conclusion
Key Works by or about Meiji Women Missionaries
Part 1: Works by Missionaries
Part 2: Secondary Sources
Appendix 1: Early Women's Missionary Societies
Appendix 2: List of Annual Letters from the Field by CMS Missionaries
Appendix 3: Leading Missionaries in Women's Education
Appendix 4: Key Japanese Women Influenced by Missionaries
Appendix 5: Girls' Schools Founded 1870-1912

Chapter III: Sojourners
[Sojourners Writers 36 / Annotations 133 / Bibliography 159]
Portraits of Women Sojouners
Introduction
Key Works by Sojourners
Bibliography
Part 1: Works by Sojourners
Part 2: Secondary Sources

Chapter IV: Writers
[Writers (Authors) 74 / Annotations 286 / Bibliography 330]
Portraits of Women Writers
Introduction
Key Works by Writers
Bibliography
Part 1: Works by Writers
Part 2: Secondary Sources

Author Index

Mrs. Fraser

黄禍論－英語文献復刻シリーズ－

第１回配本：英国黄禍論小説集成　全７巻

Yellow Peril, Collection of British Novels 1895 - 1913

残部僅少

【編集・解説】橋本順光（大阪大学）

2007 年 1 月刊行　ISBN: 978-4-86166-031-3　本体セット価 ~~￥138,000~~ -（＋税）　⇒　特価￥69,000-（＋税）

- **●世紀転換期に欧米で吹き荒れた反東洋、黄禍論に関する同時代の一次資料を集成する新シリーズ**
- **●第 1 回配本は「怪人フー・マンチュー博士」シリーズに代表される英国の小説 9 編の初版または今日の研究に重要な版を図版含め復刻**
- **●続刊では黄禍論に援用された日本人、東洋人の著作も収録し、この時代の西洋 vs. 東洋のメディア戦争を再現**

黄禍論－英語文献復刻シリーズ－

第２回配本：黄禍論史資料集成　全４巻

Primary Sources of Yellow Peril Series II

Yellow Peril, Collection of Historical Sources

【編集・解説】橋本順光（大阪大学）

2012 年 6 月刊行　A5 判・約 1,900 頁　ISBN: 978-4-86166-033-7
本体セット価~~￥118,000~~（＋税）　⇒　特価￥59,000-（＋税）

- **●反日･反アジア主義小説集の第一回配本に続き、今回はそれらの小説とも密接に関連する史資料 40 点を復刻集成。**
- **● 19 世紀末から第一次世界大戦まで、作家、外交官、研究者、ジャーナリストらの論説や研究書からの抜粋、パンフレット、雑誌論文などを収録し、経済的・軍事的脅威論の系譜を追う文献集。**
- **●同時に、日本やアジアのナショナリストたちの反論も収載、東西の複雑なメディア戦争を再現する。**
- **●日本、東アジア、英国の近代史研究だけでなく、明治から大正初期のアジアと西洋間の関係史、そして比較文学･文化、メディア史の資料として広く利用可能なコレクション**

◆収録内容◆

第 1 巻：Pearson's Prediction: Yellow Peril or White Hope?
「黄禍論の予言者ピアソンとその余波」
Introduction and Bibliographic Notes by Yorimitsu Hashimoto

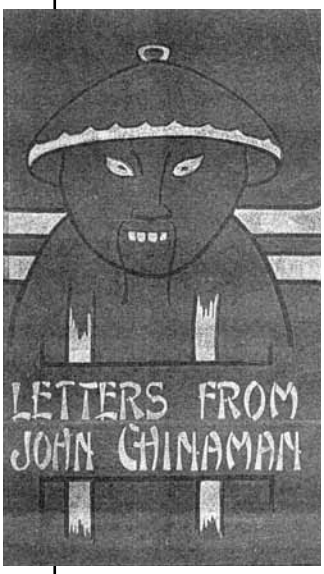
第 2 巻：The Boxer Rebellion - Letters to and from China
「中国と西洋の覚醒　義和団事件をめぐる往復書簡」

第 3 巻
Part 1: The Spectre of Genghis Khan: Japan as Model and Monster
「第 1 部 : ジンギスカンの亡霊とモデルとしての日本」

Part 2: The Russo-Japanese War as Racial Conflict
「第 2 部 : 人種戦争としての日露戦争」

第 4 巻：The Breakup of China and Asia for the Asiatics
「アジア主義への警戒と辛亥革命」

※収録文献の詳細は、http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-033-7.html でご覧いただけます。



フェノロサ英文著作集

【復刻集成】　全３巻＋別冊日本語解説

Ernest Francisco Fenollosa: Published Writings in English

【編集・解説】山口静一（埼玉大学名誉教授）

(Series: ***Collected Works of Japanologists***)

2009 年 3 月刊行　判型：B5 判・約 1,270 頁　ISBN: 978-4-86166-112-9

本体セット価￥~~78,000~~-（＋税）　⇒　特価 39,000-（＋税）

■フェノロサ没後 100 周年記念出版■

「日本美術の恩人」と称されるフェノロサの英文著作の初の集成です。

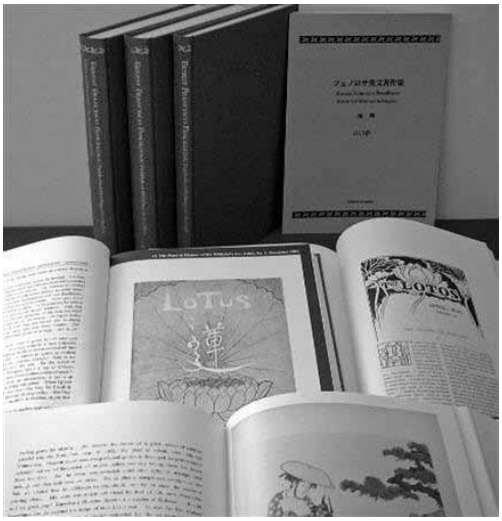
明治 11 年に米国より来日し、前年開校した東京大学の政治学、理財学、哲学教授に着任したお雇い外国人フェノロサは、教育者として、後の日本教育界をリードすることになる多くの人材（井上哲次郎、岡倉天心、嘉納治五郎、高田早苗など）を育てますが、同時に、西洋崇拝の明治にあって見捨てられていた日本の伝統美術を高く評価し、美術品収集、研究を進め、岡倉天心とともに東京美術学校の創立に尽力します。米国帰国後もボストン美術館日本美術部キュレーターを務め、米国での日本美術の紹介や、ボストンだけでなくフリーア美術館など米国での代表的日本美術コレクションの礎をつくったことでも知られています。

しかし、その業績や人物に対する評価に比べると、詩集 *East and West* のほかには大きな単行本著作を残さず急逝したフェノロサの執筆活動や著作に対する研究は、未だ限定的にしかなされていないといえます。前述の詩集や、死後未亡人メアリー・フェノロサが遺稿をまとめた *Epochs of Chinese and Japanese Art*、そしてエズラ・パウンドがフェノロサ 訳として編んだ謡曲集、そして日本での講演の日本語による記録などが現在でもフェノロサの著書として一般に言及されていますが、フェノロサ自身が日本語をほとんど解さなかったことなどを考慮すると、これらの出版物のどこまでを本来の彼の著作とするのかは、議論が分かれるところでしょう。

没後 100 年を期に編集される今回の著作集は、フェノロサが自らの名前で活字化していたほぼすべて（ペーパーバック等で刊行されている詩集 *East and West* および遺著 *Epochs of Chinese and Japanese Art* を除く）の文献を復刻にて収録します。ハーバード大学卒業文集に発表した長詩や、東京大学で出題した試験問題から、日本の英字新聞や雑誌に投稿されたゴンスやアンダーソンの日本美術書への書評や日本文化論、美術展カタログへの解説、シカゴ万国博覧会の教育会議での発表、帰国後アメリカの雑誌に発表された美術論や美術教育論など計 51 点の文献を全 3 巻に収録します。そのほとんどが初出後初めて再刊されるものです。編者による別冊解説、そして巻末には編者がフェノロサの業績と参考事項を詳説する年表と、夫人メアリーの浮世絵に関する論文 2 点を付録しています。

今後のフェノロサ研究、近代日本美術史、米国・西洋での日本美術の受容の研究には必携の文献です。

※収録文献の詳細は
http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-112-9.html
でご覧いただけます。



西洋人たちの語ったラフカディオ・ハーン
－初期英文伝記集成－ 【復刻集成】 全４巻＋別冊解説

Early Biographical Sources of Lafcadio Hearn

【監修・解説（日本語&英語）】梅本順子（日本大学国際関係学部教授）

2008 年 10 月刊行　A5 判・約 2,200 頁　ISBN: 978-4-86166-102-0

本体セット価 ~~￥88,000-~~（＋税）　⇒　特価￥44,000-（＋税）

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の作品は、その生存中から数多く欧米で発行され、世紀末からのジャポニズム小説の人気もあり英語圏でも広く読まれ、友好的な日米・日英の関係を背景に、ハーンも一定の評価を得、戦前には多様な伝記やその業績に関する書物が出版されました。しかし著名なエリザベス・ビスバンドのハーン伝を除き、それらのほとんどは現在絶版となっており、研究者、学生が容易に利用することができなくなっています。今回の復刻出版は、これら今日入手の困難になっている、英文で出版された戦前のハーンの伝記や人物研究 10 点を集成します。合わせて、新聞や雑誌などに掲載されたハーンの人物評価に関する文献も付録する予定です。監修者による解説（日本語＆英語）が書き下ろされています。

◇収録内容◇

VOL.1:

Gould, George Milbry,
Concerning Lafcadio Hearn, with a Bibliography by Laura Stedman,
London: T. F. Unwin, 1908, c.318pp.

Thomas, Edward,
Lafcadio Hearn,
London: Constable & Boston: Houghton Mifflin, 1912, c.96pp

VOL.2:

Kennard, Nina H.,
Lafcadio Hearn, containing Some Letters from Lafcadio Hearn to His Half-Sister, Mrs. Atkinson,
London: Eveleigh Nash, 1912, c.403pp.

VOL.3:

Tinker, Edward Larocque,
Lafcadio Hearn's American Days,
London: John Lane, 1925, c.396pp.

Ball, Chas E.,
Lafcadio Hearn: An Appreciation,
London: Caxton Books, 1926, c.12pp

Hendrick, Elwood,
Lafcadio Hearn,
New York: New York Public Library, 1929, c.10pp

VOL.4:

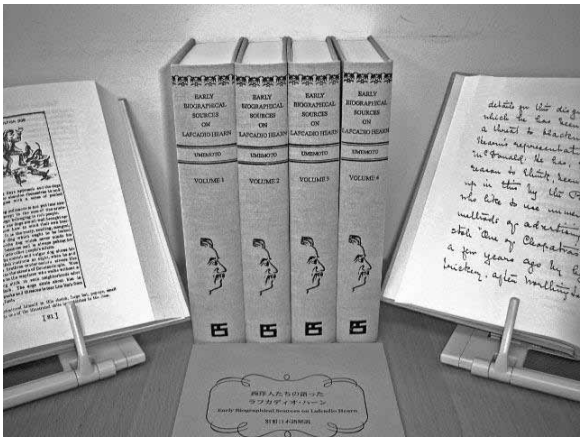
Lewis, Oscar,
Hearn and His Biographers: The Record of a Literary Controversy,
San Francisco: Westgate Press, 1930, c.120pp

Barel, Leona Queyrouze,
The Idyl: My Personal Reminiscences of Lafcadio Hearn,
Tokyo: Hokuseido Press, 1933, c.71pp

Kirkwood, Kenneth Porter,
Unfamiliar Lafcadio Hearn,
Tokyo: Hokuseido Press, 1936, c.110pp.

Lafcadio Hearn in New Orleans,
Lafcadio Hearn Society of New Orleans & Japan Institute New York, 1941, c.47pp.

Appendix: Miscellaneous articles on Lafcadio Hearn



●日本・アジアの服飾・風俗をカラー図版 100 点以上とともに描いた●

ワールド・イン・ミニチュア

―日本・中国・東南アジア・南洋諸島―

全 7 巻＋別冊解説

The World in Miniature; Japan, China, The Asiatic Islands and New Holland, & South Sea Islands

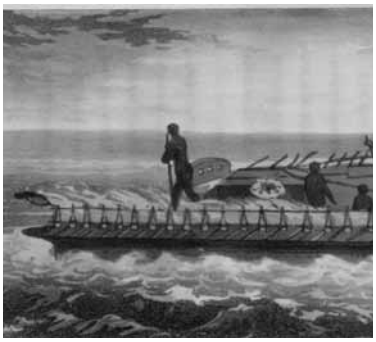
監修・解説●志渡岡理恵（実践女子大学）

2015 年 2 月刊行　A6 判・総約 2,320 頁（カラー図版 102 点）　ISBN:978-4-86166-185-3

本体セット価：~~￥128,000-~~（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

ドイツから移民したルドルフ・アッカーマン（Rudolf Ackermann, 1764−1834）が 1796 年にロンドンに創立したアッカーマン社は、*The Microcosm of London* (3 volumes, 1808-1811), *Westminster Abbey* (2 volumes, 1812) など彩色版画入りの大型絵入り本や、絵入り雑誌 *Repository of Arts, Literature, Fashions* (1809-1829) で知られる、19 世紀の初めの英国を代表する書肆です。なかでも Repository of Arts の編集者で、自身イラストレーターでもあったフレデリック・ショバール（Frederic Shoberl, 1775-1853）の編著で刊行した *The World in Miniature* (43 volumes, 1821-6) は、世界各地の地理、文化、風習、服飾などをカラー図版入りで紹介し大成功したシリーズです。文字通り一般読者向けの小型本として製作され、海外に目を向け始めたヴィクトリア期直前の英国近代市民の間で人気を博し、6 年間に全 43 巻が刊行されました。

本集では、この *The World in Miniature* シリーズのなかの、日本（全 1 巻）、中国（全 2 巻）、フィリピン、インドネシアなど東南アジア地域（全 2 巻）、ハワイやニュージーランドを含むミクロネシア・ポリネシア地域（全 2 巻）の計 7 巻を 100 点以上の彩色図版とともに復刻するものです。伝聞や想像をもとに著された 18 世紀の書物の中にある記述とは異なり、この地域を旅し、滞在した西洋人の旅行記などから「事実」を抽出した編集を試みてはいますが、まだそこには多くの誤解や先入観の入ったアジア像が見出されます。産業革命や交通の近代化とともに世界が小さくなりだしたこの時代を象徴する本書は、英国や西洋に日本やアジアの国々がどのように映っていたのかを視覚的にも認識させてくれる興味深い資料です。



監修者より

本コレクションは、19 世紀初頭に世界各国の情報を一般読者に提供する目的で刊行された 43 巻シリーズの一部である。編著者ショバールは、幅広い関心の持ち主で、*New Monthly Magazine* や *The Forget-me-Not* をはじめとする雑誌の編集に携わるかたわら、*A History of the University of Oxford* (1814) のような大学の歴史を辿った本、旅行文学なども多数出版している。雑学も豊富だったに違いないショバールの編んだ日本の巻を開いてみると、まず何と言っても目を惹くのは色鮮やかな図版。そこに描かれているのはどこかヘンテコな日本人。目次には、宗教や農業、政府の形態、軍隊、鎖国の理由といった基本情報のほか、「嬰児殺し」、「自殺」、「地震」などの項目が並ぶ。「蝦夷」も取りあげられている。序文には、参照した先達の名前 —Kämpfer、Thunberg、Charlevoix、Titsingh— が挙げられている。例えば、アジアが一般の人々の旅先のひとつになり始めた 19 世紀末に書かれたイザベラ・バードの旅行記や現在の歴史教科書と読み比べつつ、誤解のメカニズムについて思いを巡らすなど、多様な読み方が楽しめる作品である。

志渡岡理恵

●収録内容●

VOLUME 1:

***Japan**: containing illustrations of the character, manners, customs, religion, dress, amusements, commerce, agriculture, etc. of the people of that empire*

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, 1823

c. 348 pp. incl. 20 colour plates

Contents: Japanese Islands / Persons of the Japanese / Form of Government / The Dairi, or Spiritual Emperor / Dress of Both Sexes / Houses and Furniture / Marriage / Japanese Language / State of the Roads, Modes of Travelling / Public Festivals and Amusements / Agriculture / Fisheries / Foreigners / Islands of Yesso and Sagaleen, etc.

VOLUME 2-3:

***China**: containing illustrations of the manners, customs, character, and costumes of the people of the Empire*

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, [1823]

v. 1: c. 275 pp. incl. 15 colour plates

v. 2: c. 304 pp. incl. 15 colour plates

Contents: Mandarin / A Lady of Distinction / Imperial Sedan-Bearer / A Female Bonze / A Watchman / A Matchlock Soldier / An Infantry Soldier / Juggler / A Chinese with Umbrella / Confectioner / Seamstress / Waterman / Itinerant Fruit-Seller / Fruit Stall / A Bookseller's Stall / An Itinerant Flower-Seller / Pedlar / Dog-Seller / Fisherman / Countryman with a Cloak of Rice Straw / Barber / Viper-Seller / Pigeon-Seller / Puppet-Show /The Miao-Tse / Chinese Mahometans / Eleuth Tartar / Corean Mandarin / Filial Respect of the Chinese / Mourning / Funeral, etc.

VOLUME 4-5:

***The Asiatic islands and New Holland**: being a description of the manners, customs, character, and state of society of the various tribes by which they are inhabited*

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, [1824]

v. 1: c. 338 pp. incl. 14 colour plates

v. 2: c. 324 pp. incl. 12 colour plates

Contents: The Philippine Islands / The Marian Islands / Sumatra / Engano / The Nassau or Poggis Islndas / Poulo Nias / Nicoabar Islands / The Andaman Islands / Java / Bali / Timor / Savu / Rottie / Ombay / Borneo / Celebes / Amboyna / Rawak / Waigioo / New Guinea / New Holland / Van Diemen's Land

VOLUME 6-7:

***South Sea Islands**: being a description of the manners, customs, character, religion, and state of society among the various tribes scattered over the Great Ocean, called the Pacific, or the South Sea*

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, [1824]

v. 1: c. 362 pp. incl. 11 colour plates

v. 2: c. 362 pp. incl. 15 colour plates

Contents: The Friendly Islands / Sandwich Islands / The Marquesas / Easter Island / Society Islands / The Feejee Islands / New Zealand / Radack Islands / The Caroline Islands / New Caledonia / The New Hebrides / Pitcairn's Island

『ジャポニスムの系譜』第 10 配本

パリ装飾芸術美術館浮世絵版画展 1909 ～ 1914 年 全図録集成

【復刻版】図録 6 点・合本 3 巻＋別冊解説

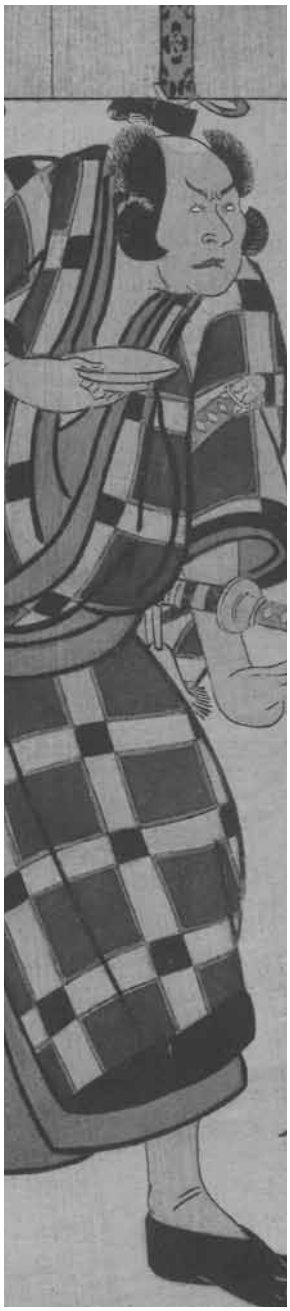
Estampes japonaises, tirées de diverses collections et exposées au Musée des Arts Décoratifs de Paris 1909-1914

Collection des Catalogues dressés par M. Vignier avec la collaboration de M. Inada

【監修・解説（日本語）】南 明日香（相模女子大学教授）

【シリーズ監修】馬渕明子（元国立西洋美術館館長）

2018 年 9 月刊行（限定 100 部） B4 判 全 3 巻・総約 950 頁（図版約 1056 点、内カラー約 68 点）
ISBN : 978-4-86166-203-4 **本体セット価￥~~148,000~~-（＋税） ⇒ 特価￥74,000-（＋税）**



1909 年から 1914 年の 6 年間、毎年 1-2 月にパリ装飾芸術美術館にて開催された、大規模な浮世絵版画展の大判図録 6 点の完全復刻版です。フランス 19 世紀末ジャポニスムブームの立役者で、後に同館の副館長となる R. ケクランの企画・監修により実現したこの展覧会では、師宣、写楽、歌麿、北斎のような人気浮世絵師から知名度の低い絵師まで約 130 作者の作品約 2300 点と関連の書籍を 6 回に分け展示するという類のないシリーズ展でした。ジャポニスム期を代表する美術商ビング、ラファエル・コラン、アンリ・リヴィエールといった同時代の画家、宝石商アンリ・ヴェヴェールのような美術愛好家など、多彩な日本美術コレクター 66 名の収集品が出品され、また日本美術の所蔵を始めていたルーヴル美術館とパリ装飾芸術美術館の所蔵品版画も一部展示されました。それまでに開催されていた個人コレクター収集品の日本美術展などとは規模、網羅性でも一線を画し、浮世絵版画史の時代区分に従い系統的に企画された初の浮世絵版画展で、ジャポニスム期の西洋での日本美術受容を明らかにするだけでなく、その後の西洋での浮世絵研究を大きく広げる画期的な展覧会となりました。しかし、6 分冊で刊行された展示図録は各限定部数（100 ～ 130 部）発行の豪華本であったため、図書館、研究機関での所蔵も極めて少なく、その全容を知ることは容易ではなく、本展覧会にかんする本格的な研究もまだあまり進んでいません。

今回の出版は余白を詰めますが、原寸に近い大判（B4 判）で、カラー図版もすべて収録する初の完全版です。内容は、ケクランによる解説（一部共著）と展示品目録および主要作品の図版からなります。目録の編集は、詩人・文学者であると同時に美術商として l'Hôtel Drouot でルイ・ゴンス収集品など日本美術の競売にも関わったシャルル・ヴィニエが担当し、展示作品の主題と判型、絵師名に加え、版元や彫師、所蔵者名などの情報もわかる範囲で掲載、この時代の西洋での浮世絵版画研究の水準を示しているといえます。ジャポニスム研究、国際浮世絵研究だけでなく、より広く日本美術史、東西文化接触史研究に必携の一次資料です。

推薦文

小林 忠（国際浮世絵学会会長）

従来『ヴィニエ - 稲田版画目録』の名で知られている稀覯書が復刻されるという吉報が届いた。

原書は、ジャポニスムの熱狂がまだ冷めやらない 20 世紀初頭、1909 年から 1914 年にかけて、６年間６回にわたりパリの装飾芸術美術館で開催された系統的な浮世絵展の、詳細なカタログである。企画者は同館の副館長Ｒ．ケクランで、目録の編集にあたったのは、パリの美術商シャルル・ヴィニエと当時遊学中であった京都の美術商稲田賀太郎であった。

全展示作品の目録とそのうちの優品を収めた図版からなる大型図録は、当時のパリを中心とするヨーロッパの浮世絵コレクションの全貌をうかがうに足るものであった。しかしながら、刊行された６分冊は 100 部から 130 部という稀少な豪華限定本であり、日本の浮世絵やジャポニスムの研究者も容易に目にすることが叶わない、幻の画集と言って過言ではなかった。それが、ほぼ原書の味わいを損なうことなく再現されるとのことなので、復刻の意義はすこぶる大きく、有難い。

一日も早く手に取って、その床しい風味を味わいたく、全巻の刊行完結を切望している。

●収録内容●

第 **1** 巻

Estampes japonaises primitives, exposées au Musée des arts décoratifs en Février 1909

1909 年浮世版画展図録：初期浮世絵版画 (仏教版画や菱川師宣、鳥居清信など 24 名の絵師の作品)

解説（ Raymond Kœchlin）3 頁｜目録（掲載 328 点）23 頁｜図版（白黒 170 点）：64 頁

Harunobu, Koriusaï, Shunsho : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1910

1910 年浮世版画展図録：鈴木春信、礒田湖龍斎、勝川春章を中心に約 33 名の絵師の作品

解説（ Raymond Kœchlin）14 頁 | 目録（掲載 328 点）46 頁 | 図版（白黒点 90 点、カラー 5 点）67 頁

第 **2** 巻

Kiyonaga, Buncho, Sharaku : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1911

1911 年浮世版画展図録：鳥居清長、一筆斎文調、東洲斎写楽を中心に約 8 名の絵師の作品

解説（ Raymond Kœchlin）23 頁 | 目録（掲載 335 点）31 頁 | 図版（白黒点 189 点、カラー 20 点）102 頁

Utamaro : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1912

1912 年浮世版画展図録：喜多川歌麿を中心に約 10 名の絵師の作品

解説（ Raymond Kœchlin）19 頁 | 目録（掲載 306 点）28 頁 | 図版（白黒点 207 点、カラー 15 点）114 頁

第 **3** 巻

Yeishi, Choki, Hokusaï : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1913

1913 年浮世版画展図録：鳥文斎栄之、栄松斎長喜、葛飾北斎を中心に約 24 名の絵師の作品

解説（ Raymond Kœchlin）25 頁 | 目録（掲載 405 点）32 頁 | 図版（白黒点 249 点、カラー 14 点）143 頁

Toyokuni, Hiroshigé : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1914

1914 年浮世版画展図録：歌川豊国、歌川広重を中心に約 26 名の絵師の作品

解説（ Raymond Kœchlin & Charles Vignier）11 頁 | 目録（掲載 404 点）30 頁 | 図版（白黒点 151 点、カラー 14 点）100 頁

『ジャポニスムの系譜』第９配本

ジェームズ・ロード・ボウズ
日本美術工芸関連著作集成

【英文復刻版】全５巻＋別冊日本語解説

Collected Works of James Lord Bowes on Japanese Art

【解説】粂 和沙（日本女子大学） / 【監修】馬渕明子

2015 年 12 月刊行　ISBN 978-4-86166-192-1

全約 2,030 頁（カラー図版約 110 点）　判型：第 1-4 巻＝ B5 判／第 5 巻＝ A4 判

本体セット価~~￥148,000-~~（＋税）　⇒　特価￥74,000-（＋税）

◆イギリス・ジャポニスムのもう一人の立役者ボウズの著作など９文献を５巻に収録、カラー図版多数掲載◆

ボウズ著作集刊行によせて　　馬渕明子

ジェームズ･L．ボウズは、知名度は低いが、じつに面白い人物である。実業家であり、1890 年代に、リヴァプールに「日本美術館」を作って､さかんに日本美術の伝播に貢献した。リヴァプールに上陸する日本人を次々と歓待して自邸に泊め、交流した。なかに、南方熊楠や加藤高明などがいる。そのうえ、日本の工芸に関する本や論文を書いた。当時欧米語でのこの分野の本が極めて少ないころのことである。アメリカ人で日本にお雇いとしてやってきたエドワード・シルヴェスター・モースも陶磁器に関心を持ち、ボウズの書いたものを輸出用の近代の作品に基づいているとして批判したが、ボウズ自身はいわゆる名品コレクターというより、それらの作品に日本のものの見方や風俗を読み取ることが第一の目的であったと思われる。名品コレクターは自分の財力や鑑識眼を誇る傾向にあるが、そうしたボウズの「日本から多くを学ぶ」という姿勢は、コレクターとしては珍しい。残念なことに彼の早い死によって、美術館は十年で姿を消し、コレクションは散逸した。その復元はかなり困難であるが、英国や西洋各地に散って、彼が希望した日本の深い理解に貢献することになったと言えるのではないか。

このたびボウズの著作がまとまって刊行されることになった。ジャポニスム研究のうえでも、日本美術の海外での受容研のうえでも、きわめて重要な役割を果たすことになろう。たいへんありがたいことである。

CONTENTS

Vol. 1: ***Japan: An Interview with H.I.M. Consul at Liverpool***, Liverpool: D. Marples (Printed by), 1889.
Handbook to the Bowes Museum of Japanese Art Work, Liverpool: E. Howell, 1890.
Handbook to the Bowes Museum of Japanese Art Work: Streatlam Towers, Liverpool, Liverpool, 1894.
A Vindication of the Decorated Pottery of Japan, Liverpool: D. Marples (Printed by), 1891.
Japanese Enamels, with Illustrations from the Examples in the Bowes Collection, Liverpool: D. Marples (Printed by), 1884.

Vol. 2: ***Notes on Shippo: As Sequel to Japanese Enamels***, London: Kegan Paul, Trench, Trübner & Co., 1895.
Catalogue - The "Bowes" Collection of Japanese Art, Liverpool: Branch & Leete, Auctioners, 1901.

Vol. 3: ***Japanese Marks and Seals***, London: Henry Sotheran, 1882.

Vol. 4: ***Japanese Pottery. with Notes Describing the Thoughts and Subjects Employed in Its Decoration and Illustrations from Examples in the Bowes Collection***, Liverpool: E. Howell, 1890.

Vol. 5: ***Keramic Art of Japan*** [with George Ashdown Audsley]
Vol. 1: Liverpool & London: Henry Sotheran, 1875. / Vol. 2: Liverpool & London: Henry Sotheran, 1875.

【別 冊】日本語解説：粂 和沙 , *The Gardens of Uyeno and Asakusa, Yedo*, Liverpool, 1894, Transcribed Text

ウィリアム・モリスの芸術と社会主義運動
同時代パンフレット復刻集成　全３巻＋別冊解説

William Morris, Art and Socialist Movements: A Collection of Contemporary Pamphlets

【編集・解説】川端康雄（日本女子大学教授）

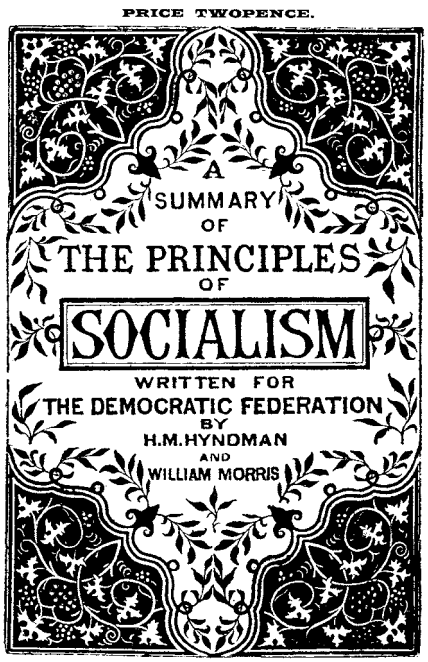
2019 年 9 月刊行　A5 判・全約 1,250 頁　ISBN: 978-4-86166-210-2　※ 限定 100 部

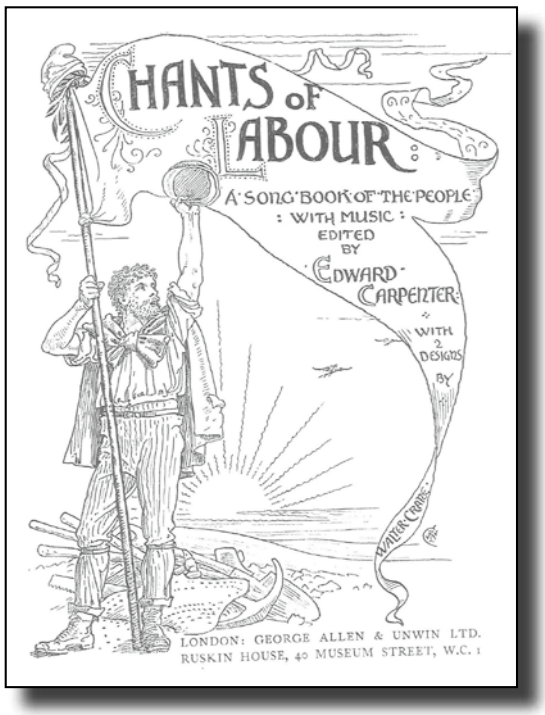
本体セット価：~~¥98,000~~-（＋税）　⇒　特価￥49,000-（＋税）

ヴィクトリア朝時代英国を代表する文筆・芸術家であるウィリアム・モリスの文学創作や装飾芸術作品の制作が、彼の社会主義思想と深く関わるものであることはつとに知られています。実際、彼の著作の多くはその活動の拠点となった Socialist League（社会主義同盟）の機関紙やパンフレットなどに当初発表されています。本集は、モリスが所属したこの同盟の公式パンフレットを中心にその周辺で刊行された様々な小冊子類 47 点をまとめる復刻資料集です。

第 1 巻には社会主義同盟の 2 つのパンフレットシリーズ全点とこの同盟の報告書等の史料類、第 2 巻は、モリスおよび彼の盟友たちが発表した社会主義に関する小冊子や、モリス自身も編集に加わった労働歌集など、そして第 3 巻にはモリスが行った社会主義と芸術に関する講演録を収録。

ウォルター・クレインによる挿画入りの冊子やモリス自身がデザインした活字体（ゴールデン・タイプ）によって印刷されたものなど、初出時の版面をできる限り再現し、モリスの思想と芸術の神髄の視覚的な研究や教育の手助けとなるよう編集されています。編者による書下ろし解説（日本語）付きです。





CONTENTS

Volume 1

I. *Socialist Pamphlets* Series

II. Miscellaneous Documents related to the Foundation of the Socialist League

III. *Socialist Platform* Series

Volume 2

IV. Miscellaneous Pamphlets on Socialism

V. Songs for Socialists

Volume 3

VI. Art and Socialism

『ジャポニスムの系譜』第７配本

フランス人コレクターの日本美術品売立目録

16 文献・合本６巻＋別冊日本語解説

Catalogues des Ventes des Collections d'Art Japonais

【編集・解説】馬渕明子

2011 年 9 月刊行　B5 判 (Vol. 1-5) & A4 判 (Vol.6)・全約 3,200 頁（図版多数）　ISBN 978-4-86166-059-7

本体セット価￥~~148,000~~-（＋税）　⇒　特価￥74,000-（＋税）

本書の特色

- **フランス・ジャポニスム期を代表する美術コレクター８名の日本・極東美術収集品のオークションカタログ 16 点を集成。多数の図版も洩れなく収録。**
- **フランスでの日本美術の受容の研究と同時に、今日注目される研究テーマ、海外へ流出した日本美術品調査のための一次資料としても極めて重要。**

19 世紀末から 20 世紀初頭の、西洋における日本美術受容研究のための同時代の文献や史料を、原本の復刻で提供するシリーズの第７回配本は、ジャポニスム期を代表するフランス人日本美術コレクターの美術品売立目録を復刻集成します。
ジャポニスムという用語を初めて使用したとされる美術評論家フィリップ・ビュルティー、「知られざるオリエンタリスト」ピエール・バルブトー、林忠正の協力で『歌麿』や『北斎』を著した作家エドモン・ド・ゴンクール、『パリ・イリュストレ』誌などを手掛けた印刷業者で同誌の日本特集号では編集長を務めたシャルル・ジロ、ジャポニスムを代表する美術商で月刊誌『芸術の国日本』を出版したことでも著名な S. ビング、印象派絵画のコレクターとしても知られるアレクシス・ルアール、アルザス地方ミュルーズの著名な製糸業者の一族で、オランダ美術、印象派、日本美術などのコレクターとして名を知られたジャン・ドルフュス、そして『ガゼット・デ・ボザール』の編集長でジャポニスム・ブームの立役者ルイ・ゴンス、以上 8 名のコレクションの売立目録計 16 点を収録します。利用の便を図り、一部の文献は原本を若干縮小しますが、多数の図版も含め出来る限り原本を忠実に復刻いたしました。

売立目録は、各時代に美術品がどのように評価され、社会に受容されていたのかを伝える生の記録として注目されている一次資料です。本コレクションも、フランス人美術コレクターの日本美術収集活動の研究だけでなく、林忠正やビングなど美術商がヨーロッパでの日本美術の受容に果たした役割、西洋で受け入れられた日本美術の傾向、そして今日注目の集まる日本美術品の海外への流出の調査など、美術・文化史研究に、広くご活用ください。

＊本書出版に際しましては、利便性を考え、原本余白部分を必要に応じ削除し、コンパクトなサイズで復刻しておりますが、一部の目録はテキスト・図版部分にも若干の縮小がなされています。

【収録内容】

VOL. 1: [Philippe Burty] ビュルティー 1891 年 3 月売立目録 2 点（B5 判・570 頁)

VOL. 2: [Goncourt] ゴンクール兄弟 1904 年 3 月売立目録 1 点（B5 判・464 頁)

VOL. 3: [Gillot, Charles] ジロ 1904 年 2 月＆ 4 月売立目録 2 点（B5 判・776 頁)

VOL.4 : [Pierre Barbouteau, Alexis Rouart] バルブトー 1904 年 6 月、1905 年 11 月、1908 年 4 月、1924 年 3 月売立目録 5 点、ルアール 1911 年 5 月売立目録 1 点（計 6 点　B5 判・628 頁)

VOL. 5: [Jean Dollfus & Gonse, Louis] ドルフュス 1912 年 5 月売立目録 1 点、ゴンス 1924 年 5 月、1926 年 4 月売立目録 3 点（計 4 点　B5 判・580 頁)

VOL. 6: [Bing, S.] ビング 1906 年 5 月売立目録 6 分冊 1 点（A4 判・約 330 頁)

ジュディット・ゴーティエ

－日本･中国趣味著作集－【復刻集成】全５巻＋別巻『蜻蛉集』

Le Japon et la Chine dans les œuvres de Judith Gautier
5 vols. + Poèmes de la libellule

【編集・解説】小山ブリジット（武蔵大学）［別冊■解説和訳　隠岐由紀子（帝京平成大学）］

2007 年 3 月刊行 約 2,800 頁（第 1-5 巻：A5 判 ／ 別巻：変形 B5 判［カラー］） ISBN 978-4-86166-037-5

本体セット価：~~￥128,000~~（＋税）⇒　特価本体：￥64,000-（＋税）

ピエール・ロティとならぶ、フランス文学におけるジャポニスム・オリエンタリズムの中心人物、ジュディット・ゴーチエ Judith Gautier (1846-1917) の初めての復刻著作集です。父テオフィル・ゴーチエの影響もあり東洋への関心を抱いたジュディットは、父とともに訪れた 1862 年ロンドン万博の後、本格的に中国語を学び、1867 年に唐詩の翻訳 *Livre de jade*、69 年に中国を主題とした小説 *Le dragon impérial* を発表します。その後、日本の開国により渡仏する日本人留学生や外交官の多くが彼女のサロンを訪れ、彼らとの交流から作品の主題も日本へと広げられ、1875 年に日本を題材とした初めての小説 *L'usurpateur* を出版します。それは、後に戯曲 *La fille du ciel* を共著することにもなるピエール・ロティが『お菊さん』を刊行する約 10 年前のことです。その後も数多く著された日本・東洋趣味の作品の中には、1900 年のパリ万博での貞奴の公演のための舞踊劇の台本 *La musique japonaise* のような珍しいものも含まれますが、なかでもパリ留学中の西園寺公望が『古今和歌集』などから選んだ和歌の仏訳『蜻蛉集』*Poèmes de la libellule*（1884 年）は、山本翠水の挿絵の効果もあり評判を呼び、19 世紀末フランスでのジャポニスムブームを現す書物として大変貴重なものです。

本復刻集は、ジュディット・ゴーチエの日本と中国を題材とした作品のうち、現在の版で入手できるものを除き、初版または同時代の版を復刻するものです。フォリオ判の『蜻蛉集』も別巻に収録いたしました。ジャポニスム研究が絵画、美術の分野からより広く文学、文化研究へと展開している今日、本著作集をどうぞこれからの幅広い研究のための一次文献集としてお役立てください。

■収録文献■

VOL. 1 [c.390pp]
Introduction de Brigitte Koyama-Richard

Le dragon impérial : Roman chinois
Paris: [1869] Librairie Armand Colin, Nouvelle ed. 1900, 344pp

Aventures de Momotaro: Très ancienne légende japonaise,
traduction et adaptation de Judith Gautier, illustrations du peintre japonais R. Isayama.
Paris: Édition de la Phosphatine Falières, 30pp

VOL. 2 [c.535pp]
La sœur du soleil (L'usurpateur)
Paris: [1875] Dentu & Cie., Nouvelle ed. 1887, 417pp.

La marchande de sourires
Paris : G. Charpentier et Cie., 1888, 117pp

VOL.3 [c.615pp]
Fleurs d'orient
Paris: Librairie Armand Colin, 1893, 277pp

La Musique japonaise à l'exposition de 1900
Paris: Librairie, Paul Ollendorff, 1900, 30pp

Les princesses d'amour
Paris: Société d'éditions littéraires et artistiques, 1900, 305pp

VOL. 4 [c.530pp]
Le paravent de soie et d'or
Paris: Librairie Charpentier et Fasquelle, 1904, 279pp
La fille du ciel (avec Pierre Loti)
Paris: [1911] Calmann-Levy, 15e ed., 1925, 249pp

VOL. 5 [c.590pp]
Le Japon (Merveilleuses histoires)
Vincennes: Les Arts Graphiques, 1912, 125pp

En Chine (Merveilleuses histoires)
Vincennes: Les Arts Graphiques, 1912, 125pp

Les parfums de la pagode
Paris : Librairie Charpentier et Fasquelle, 1919, 336pp

別　巻：[c.130pp]
Introduction de Brigitte Koyama-Richard
Poèmes de la libellule, traduits du japonais d'après la version littérale de M. Saionzi, illustrés par Yamamoto
Paris: Gillot, 1884, 120pp
※別巻のみ分売を承っております。
本体価￥19,800-（＋税） ISBN: 978-4-86166-049-8
全頁カラー・原本を B5 変形（21 ㎝×27 ㎝）に縮小

●フランスのジャポニスム小説●

◆監修・解説（フランス語）：Brigitte Koyama-Richard（小山ブリジット・武蔵大学教授）◆

フランス小説に描かれた日本

●第 1 期：19 世紀末編　4 作品・合本 2 巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -

Série 1 : 1880-1899

A5 判・約 965 頁　ISBN: 978-4-86166-118-1　**本体セット価：~~￥47,500-~~（＋税）⇒　特価本体：23,750-（＋税）**

アフリカやアジアなど異国舞台にした旅行小説を著した Eugène Parès、政治家で政治小説を執筆する傍ら、ジュール・ヴェルヌとの共作で SF 小説も数多く出版した André Laurie、子供向けの物語や恋愛小説など幅広く発表した女性作家 Gabrielle d'Arvor、台湾を舞台にした冒険小説なども著している Jean Dargène による小説の集成。

●収録文献●

Volumes 1: (c.495pp.)
Introduction par Brigitte Koyama-Richard

Parès, Eugène, ***Promenade à travers le Japon***
Limoges : Eugène Ardant et cie, 1881, c.160pp.

Laurie, André [Paschal Grousset], ***Autour d'un lycée japonais***
Paris : Bibliothèque d'éducation et de récréation, J. Hetzel, 1886, c.326pp. [llustrations par Félix Régamey]

Volume 2: (c. 470pp.)
Arvor, Gabrielle d', ***La Rose du Japon***
Paris : Bloud et Barral, 1884, c.100pp.

Dargène, Jean, ***Arc-en-ciel*, roman du néo-Japon**
Paris : Léon Chailley, 1895, c.300pp.

●第 2 期：1900-1910　5 作品・全 6 巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -

Série 2 : 1900-1910

A5 判・約 2,325 頁（図版多数・カラー 10 点を含む）　ISBN: 978-4-86166-119-8

本体セット価：~~￥118,000-~~（＋税）　⇒　特価本体：￥59,000-（＋税）

　ジャポニスムブームが去りつつあったこの時代のヨーロッパでは、日本のイメージも東洋の神秘から東洋の脅威へと変化していきましたが、中でもロシアと同盟関係にあったフランスでは、日露戦争の開戦と日本の勝利は社会に衝撃を与えました。このように、日本の美に対する憧憬を残しながら反日感が生まれたアンビバレントな国民感情を反映し、ここに集められた小説も、極めて対照的な性格の作品群になっています。
　吉原の芸者を主人公に、ロマンティックな大衆小説を執筆した Jane de la Vaudère、ルタン紙の記者として極東取材にあたった Charles Pettit が、中国人の視点を取り入れて日本人を描いた小説作品、若者向けの本を数多く執筆した Pierre Maël の、日露戦争を扱いながら白人の優位性や愛国心を鼓舞した冒険小説、陸軍大佐であると同時に戦争小説作家としても人気を博した Capitaine Danrit が、イェロー・ペリルから西洋を救う主人公達を活躍させた 2 巻からなる長編小説など、今日では忘れ去られている作品をカラー図版も含め完全復刻いたしました。

●収録内容●

Volume 1:
Introduction par Brigitte Koyama-Richard.

La Vaudère, Jane de, ***La Guescha amoureuse.* Roman japonais**
Paries : Ernest Flammarion, 1904, 302pp.

Volume 2: (c.365pp.)
Maël, Pierre, ***Blanche contre Jaunes.* Roman d'aventures sur la guerre russo-japonaise**
Paris : Librairie générale, 1904, 358pp.

Volume 3:
La Vaudère, Jane de
***La Cité des sourires.* Roman de mœurs japonaises**
Paris : Librairie des publications modernes, 1907, 312pp.

Volume 4:
Pettit, Charles
***Le Chinois de Mademoiselle Bambou.* Roman sino-japonais**
Paris : Calmann-Lévy, 1907, 339pp

Volume 5-6:
Capitaine Danrit [Emile-Augustin-Cyprien Driant]
L'invasion jaune, Paris : E. Flammarion, 1909, 858pp.

●第 3 期：1910-1929　5 作品・全 5 巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -

Série 3 : 1910-1929

A5 判・約 1,700 頁（図版多数・一部カラー）　ISBN 978-4-86166-120-4

本体セット価：~~￥93,000~~（＋税）⇒　特価本体：￥46,500-（＋税）

第 3 回配本は、1910 年から 1929 年の間に刊行された小説 5 作品を収録しています。今日では忘れ去られている作品群をカラー図版も含め復刻いたしました。20 世紀初めフランスでの変わりゆく日本イメージの研究など、比較文化・文学、フランス大衆社会史の研究素材として広く活用が可能です。

●収録文献●

Volume 1 :
Pettit, Charles
Dogues et félins, Aventures d'un baron prussien au Japon
Paris: Editions du monde illustré, 1910, c. 290 pp.

Volume 2 :
Champsaur, Félicien, ***Poupée japonaise***
Paris: Librairie Charpentier et Fasquelle, 1912, c. 390 pp.

Volume 3 :
Ivoi, Paul d' [pseud. de Paul Deleutre]
Message du Mikado, Voyages excentriques
Paris: Boivin, 1913, c. 435 pp.

Volume 4 :
Farrère, Claude [pseud. de Charles Bargone]
La Bataille
Paris: Ernest Flammarion, 1921, c. 250 pp.

Volume 5 :
Naudeau, Ludovic
Plaisir du Japon
Paris: Ernest Flammarion, 1922, c. 285 pp.
[+ Préface et illustrations par Louis Sabattier de l'édition
de *La Petite Illustration*, c.1920]

●第 4 期：1927-38　5 作品・合本 4 巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -

Série 4 : 1927-1938

A5 判・約 1,100 頁　ISBN: 978-4-86166-190-7　**本体セット価：~~￥78,000~~（＋税）⇒　特価本体：￥39,000-（＋税）**

最終配本では、1920-30 年代に刊行された小説類を全 4 巻に収録します。ゴンクール賞受賞作家 Francis de Miomandre による日本人形を登場人物にした子供向けの絵入り小説、軍の仕事で滞日した際に目の当りにした、近代化する日本への複雑な思いをベースにする Jean Suliac の作品、戦前のパリの知識人社交界の花で、滞仏中の北白川宮妃房子内親王と親交のあった Titaÿna による、異なる時代の日本人女性を主人公にした短編小説集、日本文学の仏訳でも活躍した Georges Bonneau が日本女性の幸福と不幸を題材に、作家自身が住んだ博多を舞台に執筆した小説、外交官として日本に駐在した Georges Bagulesco が忠臣蔵をフランス語小説に仕立てた作品の、合わせて 5 作品が、原書中のイラストなども含め復刻収録されます。それぞれ非常に異なる日本との体験を持った作者たちによる、個性的な作品のコレクションです。

●収録文献●

Volume 1 :
Introduction par Brigitte Koyama-Richard, c. 13 pp.

Miomandre, Francis de
Histoire de Pierre Pons, Pantin de Feutre
Paris: Les Arts et Le Livre, 1927, c. 153 pp.

Titaÿna, ***La Japonaise***
Paris: Nouvelle Société d'Édition, 1931, c. 107 pp.

Volume 2 :
Suliac, Jean, ***Heures japonaises***
Paris: Nouvelle Éditions Latines, 1932, c. 247 pp.

Volume 3:
Boneau, Georges
Aux trois bonheurs, ou le Japon de la tradition, Roman
Paris: Plon, 1934, c. 219 pp.

Volume 4:
Bagulesco, Georges, ***Yamato damashii, Roman***
Tokyo: L'imprimrie Kenkyusha, 1938, c. 317 pp.

図説百科 極東アジアの近代

～中国・香港・マラヤ・オランダ領インドネシア～

【英文・復刻版】 全３巻

Present-Day Impressions of the Far East

and Prominent & Progressive Chinese at Home and Abroad, the History, People, Commerce, Industries, and Resources of China, Hongkong, Indo-China, Malaya, Netherlands India

Managing Director: W. H. Morton-Cameron / Editor-in-Chief: W. Feldwick

（底本：London&Chicago:Globe Encyclopedia, 1917 年刊行） A4 判・約 1,220 頁（図版白黒多数＆カラー図版・地図 21 点）

2012 年 1 月刊行 ISBN: 978-4-86166-153-2 本体セット価￥~~118,000~~-（＋税） ⇒ 特価￥59,000-（＋税）

2500 点以上の写真と図版で 20 世紀初頭の東アジアを西洋に紹介した大ヴィジュアル百科

- 20 世紀初頭に英米で刊行されたヴィジュアル版アジア百科の復刻版。
- 新世紀に入り国際政治や商業・貿易だけでなく、ビジネスの投資先としても重要度が増していた中国及びその周辺東アジア諸国に関する、当時最新の情報を網羅し多数の写真や図表とともに収録。
- 同出版社による『図説百科 近代日本とその植民地 - Present-Day Impressions of Japan』（小社より復刻版既刊）と合わせ、２百科で当時最大の東アジア情報源となるよう企画され、1917 年にロンドンとシカゴで刊行。
- 各国、各都市の歴史、地理、動植物、教育、宗教、文化、法律、政治、産業の詳説に加え、英字新聞社記者や商工会議所などの協力を得て、医療、治安、労働、交通など社会、生活に関する記述や各種統計も充実。
- 特に各地に進出していた、欧米や日本の商社、銀行、新聞、船舶業、製造業の活動については、支社の社屋やオフィス、駐在員や現地従業員の写真など、広く紙面を割いて紹介。
- 第２次大戦で失われてしまった、街並みや駅、港など公共建築物の貴重な写真に加え、政界、実業界で活躍した人物肖像写真も満載。
- 東アジア近代史、産業・経営・社会経済史、都市・建築史、比較文化学等広く研究、教育用の資料として利用可能。

THE FRENCH BUND, SHANGHAI

発行元：Edition Synapse
（エディション・シナプス）
〒 100-0014 東京都千代田区永田町 2-17-5-201
Tel: 03-6257-1030 Fax: 03-5521-0026
http: //www.aplink.co.jp/synapse

取り扱い書店：